

江 澗



同窓会理事長 渡辺達好

目次

ご挨拶・澁江第五号発行にあたって	2
同窓会理事長：渡辺達好	2
一万五千同窓への報告と訴え	3
学長：藤田敬三	3
大学学園だより	4
広報部新設、上田文庫、板倉文庫、就職関係 卒業生懇談会、校地拡張、芸術会館の竣工 入学試験、卒業式、入学式、茨木グランド のその後、スクールバス、大学立法に対し て、来年度入学試験について	4
学園人事	5
同窓会本部だより	6
総会報告と昭和43年度決算	6
昭和44年度予算と本部だより	6
同窓会支部だより	8
岡山支部、福井支部、山口支部、神戸支部 東海支部、丹有支部、和歌山相互銀行支部 富山支部、姫路支部、大阪市役所支部、 東京支部、三重支部、	8
第十三回生の集い	17
黒正巖先生(学園創設者)を語る(座談会)	17
出席者 大北文次郎 奥村日出男 藤原 光治郎 浅沼玄恵 渡辺達好 世良鎌次 比企重 中村美智子 百瀬昭治 司会 陰下嘉典	17
あの頃のこと 激動期	29
十三回、十四回、十五回生	29
北から南から—同窓生短信集	33
編集後記	38
43年度同窓会総会から	13
茨木市グランド造成工事	25
学舎全景	26
学舎三態	28
学歌・逍遙歌	39
表紙説明 大学図書館	39

近頃の世界状況を見ると諸外国の事情は内外面においてより多くの困難な政治、経済上の事象処理に明け暮れているような環境にある。ひるがえってわが国の状態もまた諸外国と同様に大少の差はあれ、内政、外交の面でもきわめて重大な局面にさらされていることは日常の各ニュースでご承知の通りである。

特に最近のわが国の大きな内部的問題では昨年以来の大学紛争処理問題がある。国立大学を中心にして私学をも含めていつ果てるともなきこの紛争は全く憂慮すべきことではなからうか。政府、

自民党もこの紛争処理に臨時立法をもってするがごとき状況にはなっているが、この大学立法の行方は仲々の業ではない。曰く政府、与党と特に野党三派の立法理念が野党の性格上異なるからでもあるが、党派を起えて真に学問の府を如何に処理するか、見出せない現状ではなからうか。かく考えるとき早急にこの

処理が行えないとしたら、日本における学問の府は大袈裟に言えば懐減に類するのではないかとさえ思える。紛争の根源が何処に介在するのか私にも的確に掴み難いが兎も角も困ったことである。本学学園にはその紛争の兆がないとはいえないし、むしろ明日にでも起りかねない状

態と聞きおよんでいる。しかし現在のところどうにか正常な教育活動が行われていることは幸といわねばならぬ。同窓生各位には常々本学の事共について重大な関心とご心配を頂いていること、思うが目下本学理事の皆さんや、特に諸先生の方々と学生諸君の相互理解の上に立つた大学運営がなされている結果、

事の静まりを得ている状況といえよう。

時に何時しか澁江発行の時期に到達し、昭和四十四年度第五号の同窓会誌を全国各地の各位のお手許にお届けすることの出来たことを幸と思っている。

諸般の構成、内容等については松本編集部長はじめ同窓会役員各位のご苦心によるものであるが、各位についてはそれぞれご本業のかたわら、かなりの時間をこれに割きなされたものである。毎回とはいえず、こゝに編集部

の各位に衷心から敬意と感謝を申し上げる次第である。

同窓生各位には愈々お元気にて各方面にご活躍のこと、思われるが、今後共各位の得難い機関誌として一層充実したものに致し度いと思うので何卒貴重なご通信や、ご意見等頂ければ幸甚、では同窓生各位の益々多幸ならんことを祈り、ご挨拶にかえる次第である。

熱い懇談を重ねてきたのみならず、学生部をはじめ各部の教職員諸氏の骨身をおしまぬ苦労が他大学のような激しい爆発にいたることをくいとめておるといわずにすぎません。

したがって本学では、教職員と学生間の不信感に多少のゆとりはあるものの、元来、最近の学生運動は今日の政治・経済のあり方、さらには、体制そのものに対する根強い抗議

ことに安保、ベトナム、沖縄、ASPACなど学園の境外にある諸契機に根ざしているものが多いので、本学といえども明日のことに

ついては確かな保障があるとは思えないのであります。

しかし、それにしても、この大学問題は一面戦後二十年を通じての全教育制度の欠陥から由来しておるものでありますから、ひと

り政府当局のみならず、直接大学関係者、すなはち教職員、理事会、同窓会、後援会などが真に一丸となって、それぞれの立場から全

力を挙げて学生のために、また速急な学園の秩序の回復と大学の改革問題に正面から取組むより他に手はないと考えております。その

方策については、ただいま全学を挙げて研究準備中であります。やがて具体的なまともな得次第、皆様にもご支援をお願い出る運びとなることと存じますから、その節は何卒よろしくお願い申し上げます。

もちろん、ご承知のごとく政府も文部次官

通達、中教審報告、大学運営臨時措置法案等によって、当面の大学問題を一応国権の圧

力に訴えて收拾しようとしています。それはあくまで研究と教育の場である大学に対する

施策としては、はなはだ危険で、かつ稔り

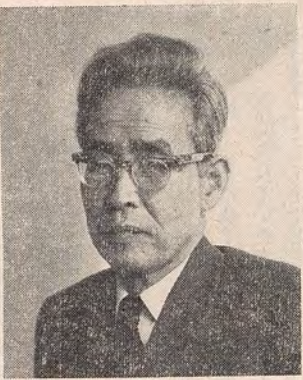
学長挨拶

一万五千同窓への報告と訴え

学長 藤田敬三

ご承知のごとく、全国の学園はいまなお揺れに揺れており、われらの学園もまた、その影響からまったく自由であることは出来ません。全国の同窓諸氏も、各種の報道を手にとれるたびごとに、母校はいかにと、少なからずご心配下さっていることを察しております。

あたかも先般の同窓会理事会、支部長会では特に経大の近況を報告してほしいとのご要望もありましたので、大学問題並びに最近の



藤田学長

学校の模様等について与えられた時間内いろいろ申し上げ、本年は特に熱烈なご支援を賜わるようお願いしております。

たよりないのは丈夫な印、などということもありますが、それにしても経大のことについてほとんど何一つ報道されないのは、はたして喜んでよいことだろうか、といったような声もあるやに聞いていましたので、大要つぎのようなことを正直に申し上げ、ご了解を願っておきました。

まず第一は、本学にかぎり何も問題がないというのではなく、問題が表面化しないための全学を挙げての努力、特に数年前から年数回、深夜にいたるまで学生と教職員代表とが

少ないものといわざるを得ません。

総じて、この大学問題は、戦後における政治、経済の急激な回復のために犠牲とされた広義の諸公害のうち最も極端なものであり、空虚なマスプロ教育の中で次第に人間疎外されていく自己を怒り見つけようとするもの、来ない気持ちに純真な若者達を追い込んでいくことは、いまや否定出来ない事実であって、単なる立法的抑制措置のみによっては到底処理し得ない体制的な欠陥となっているのであります。

したがって、この転換期の教育問題を余りにも政治的に解決せんとするがごときは、次代の日本文化の世界平和と人類の福祉に果た役割を軽視するものであると同時に、ギリシャ、ローマがいずれも、その貧困の中から興隆しながら、その繁栄のただ中に崩壊したという史実を忘れた経済偏重の態度といわざるを得ません。

本学に関する限り、微力ではありますが、学の内外における教職員諸氏と協力しつつ学生諸君の正常純真な要求に答えて、現代の要求する教育と研究の本来の姿を求めてあくまで努力していきたいと念願しておりますから万余の卒業生諸氏もわれわれの意気と誠意の程をおくみ取り下さり、学園が真にユニークな私学として国家社会への遠大な貢献を旨として、榮えて行けるよう、絶大なご支援を賜わりますようお願いする次第であります。

なお、第三学部の件は現在の大学問題との関連において、いましばらく検討しなおすこととなりましたが、個々の設備、カリキュラムなどのうち直ちに解決しうるものについては、着々対策して学生諸君、教職員の方々の要望に答えておりますから、ご放念願い上げます。

ついですが、本学の就職状況は逐年改善されておりますが、本年は特に顕著な進出振りにて各位のご支援に感謝致しております。一言、学園の近況ご報告を兼ねて一、二の私見を申し上げます。

大阪経済大学学園だより

江口グラウンドの隣接地を買収

広報部六月末に新発足

いまや、大学の学園紛争の火の手は燃盛る一方で、大学法案の成立した現在とはいえ、その終息の見込はたたない。その中においてわが母校は学内の結束によってこの紛争からまぬがれ、発展の道を順調に歩んでいることは、まことによるこびにたえない。

この原稿は、今回大学の中に新たに設けられた広報部からの提供によるものである。

◇広報部新設さる

かねてから広報・渉外に関する組織の必要性が検討されていたが6月末「広報部」として発足したスタッフは次の通り。

部長 藤原光治郎教授
 参与 中村九一郎教授
 同 重田 澄男助教授

◇上田文庫寄贈さる

兵庫県水上郡春日町 上田宏氏のご厚意を受けたもので、先代上田確郎翁が明治・大正・昭和にわたって、一生を通じ丹念に収集された大コレクションである。

その内容は経済・法律・社会・歴史・哲学・文学・etc広範囲にわたるもので、和書6,730冊・洋書152冊・雑誌5,768冊におよびものである。

◇板倉文庫も購入

43・9

◇校地拡張

44・1
 43・10頃から打診されていた江口グラウンド(学生寮北側)隣接

◇教職関係卒業生懇談会

43・12
 宇宙飛行士が遙かに地球を眺めて語るように、教育にたずさわる卒業生が、学外から母校を見つめながら、その道のあり方や体験を語り、時として歯に衣を着せぬ率直な意見はまことに貴重でした。

◇芸術会館竣工す

44・2
 一階はアトリエ、二・三階は音楽練習室で防音装置も換気設備もある。

◇入学試験無事終了

44・2
 当然のことを殊更、麗しく考えなければならぬ世相があたり

◇茨木グラウンドのその後

44・4
 海抜128mと聞くこの高台は眺望絶佳、正に「絶景かな」である。正門と進入路の整備も終り、陸上競技場(9,655m²・1400m²)、公認レーン(3条)と球場(17,688m²)は第一期仕上工事を完了した。

まえないのか、ちょっと分別がつかないが、とにかく日本国中、前代未聞の混乱に陥った入試も、本学では例年通り学生が試験監督の補助をつとめ、文字通り全学一体となって完了。(2/17、2/18) 附添のお母さんが、心おきなくわが子の成功を祈っていた姿も本学ならではの感、一汐深かった。

◇雪雪時代よさようなら 44・3
 18日卒業式、悲喜こもごも四年間長い努力と思いがまるめられた卒業証書に偲ばれる。怒声もなく静かに送ってくれた後輩：ガラス一枚わかれていない母校の姿を、もう一度懐にやきつけるかのように、ふり向いて去る卒業生、悪友？と最後の握手、同窓会で会おう……

◇入学式

44・4
 8日。早朝からつめかける父兄が予想を遙かに突破して管財課全員汗ダクの奮闘。式場にあてられた新体育館の大競技場がこの日はかりは狭く見えた。

この頃ではもう、封鎖とか授業開始阻止など、誰も案じる者はいなかった。

かくして「経大丸」は、順風満帆、四十四年度航海に出たのである。平凡とは、ほんとうに幸福なことである。

◇スクールバス運行

44・5
 体育「江口グラウンド」——講義「本学(大隅通)」間のスクールバス運行について、学生の要求があったので、(交通状況について調査したところ、学生の移動する時間帯に市バスの運行が非常にすくなくなくなることが判った)渡辺同窓会理事長のご尽力で無事発車、オーライ。

◇大学立法に対して

44・6
 この稿をまとめた直後、この法案はアポロ11号顔負けの速度で衆・参両院を席捲して遂に法律となつたが、その以前6・18日に御堂筋を整理とモデル本学の全学統一行動は、一般に對し大いにアピールした。

本学では創立以来、このように教授会・職員組合・大学院生・学生・生協が結集したのは始めてのことである。

特にノンポリといわれる一般学

生が、二千名以上も参加したことは、これまで他の大学に例のなかったことであり、本学の自由と融和の精神が如実に示されたものといえよう。

◇来年の入学試験について 44・7
 本学入試委員会は昭和四十五年度入学試験要項を下段の通り決定しました。

学園人事

四三年 八・一 新任職員

永井恵美子 庶務課(交換手)

山下美佐子 "

八・二 "

治田 道子 "

八・一九 教 授

藤原光治郎 広報部長

" "

中村九一郎 広報部参与

九・二〇 交換手

森沢 薫子 依頼退職

一・一 新任職員

波根 伸俊 研究所

一・二 書記(庶務課)

井上 英輔 広報部

" 新任職員

森川 展昭 学生部

" 法貴 義弘 "

" 助教授

重田 澄男 広報部参与

四四年 三・一五 講 師

今井 光規 依頼退職

四・一 新任教授

辻部政太郎 文美 学術

田中 健一 商業科教育 教育行政学

玉置 保 民法総則 民法

浜田 幸策 政治学 政治学

千葉 勇夫 法律学特講 法律学特講

繁田 実造 法律学特講 法律学特講

北崎 豊二 経済学 経済学

" 新任講師

里上 護衛 経済学 経済学

" 新任助手

植苗 勝弘 英語 英語

" 新任職員

久野 晋良 英語 英語

福岡 健一 体育館 体育館

" 新任職員

守田 一夫 "

" 加藤 克夫 教務部

" 吉川 勝彦 庶務課

山田 達夫 助 教授

松村 幸一 新任助手

大槻 裕子 独 乙 語

森 嘉津子 仏 語

稲原 康雄 助 教授

光沢 滋朗 講 師

鈴木 亨 経済学部長

" "

井上 清 経営学部長

" "

渋谷 寿夫 教養部長

四・一六 新任職員

山下 博三 庶務課

五・三一 教 授

木村 武夫 免教務部参与

稲原 康雄 免図書館参与

" 講 師

西村 明 免学生部参与

" 助 手

藤本 周一 免教務部参与

六・一 教 授

(1) 試験科目・時間・試験地 (1・2部共)

学 部	科 目	備 考	配 点 (計500点)	解答時間	試 験 地
経済学部	英 語	英 語 B	200	80分	大阪・姫路・高松・広島・福岡・金沢・名古屋
	国 語	現代国語 古典乙I (但し古文のみ)	150	70分	
経営学部	社 会 (1科目 1選択)	倫理・社会・政治・経済・地理B 日本史・世界史B・簿記(選択科目は出願時に届出る)	150	70分	

(2) 試験日 経済学部 (1・2部) 2月16日(月) 経営学部 (1・2部) 2月17日(火)

(3) 出願期間 郵送1月21日(水)~2月7日(土) 窓口1月21日(水)~2月9日(月)

大北文次郎 総務部長

渡辺 敬司 教務部長

" "

山本 晴義 学生部長

" "

玉井 幸弘 就職部長

" "

藤原光治郎 広報部長

" "

倉辻 平治 図書館長

" 助 授

大槻 弘 教務部委員

" "

坂野 登 "

香川 一男 講師	岡本 昌夫	内海 健一 就職部長	元浜 清海 図書館参与
松原 和男	小山 資一 (寮監兼任)	喜田 義雄 就職部参与	入江 正 師
浅沼 玄恵 免教務部長 教務部参与	高城 寛 学生部委員	松尾 竹彦 師	六・一〇 教授
上島 武 学生部委員	高橋 彦博	門坂 正人 教授	洪谷 寿夫 依願免教養 部長
和田 重司	鈴木 正里 免学生部長 学生部参与	中村 九一郎 免広報部参与 広報部委員	木村 武夫 教養部長
青谷 清	鈴木 正里 免学生部長 学生部参与	重田 澄男 助教授	七・一 助 事務取扱 手
			中川 宏 講 師
			七・一一 教 授
			木村 武夫 教養部長

同窓会本部だより

会則一部改正、理事会を決議機関に

同窓会総会を学園祭と同時に

昭和四十三年度の大阪経済大学同窓会総会は菊薫る十一月三日(日曜日)母校の学生会館大ホールで盛大に開かれた。今年は特に学校・学生側からの申し入れもあり、秋の大樟祭(経済大学大祭)と時を同じくして催されることになった。

学校も学生も、そして同窓会もいっしょになって年一度のお祭りをさらに盛大にしようというねらいである。この目的は見事達成され、大学祭のいろいろの行事を見聞しながら、まことになごやかな、しかも有意義な一日だった。

なお、総会では会則の一部改訂と昭和四十二年度決算ならびに昭和四十三年度予算が満場一致で可決された。

同窓会総会は、例年十一月の第三日曜と相場は決っていたが、今年は学校並びに学生側の強い申し入れもあって、年一度の大樟祭の一日を同窓会総会の日と決めた。

決算の承認の場や同窓生の旧交を暖める場だけに終らせず、広く学生諸君を含めた、大学のお祭りの中で、一日昔の学生にかえりアカデミックな雰囲気の中で、さらに有意義な日になろうというわけである。

同窓会としても異議のある苦もない。快くこの申し入れを受けて昨年度は日も長し十一月三日の「文化の日」と決めた。

なお、本年度の議事の中で、特に会員の方々に関心の深い問題は、第三号議案の同窓会会則改正の件で、これは現在まで同窓会総会が議決機関となっていたのを理事会を議決機関とするというものであった。これについては玉岡総務部長から補足説明がなされたが、つまり同窓会の会員もいまや一万五千人にもなり、同窓会総会の出席者が五百人余り、これでは議決機関としての意味がない。そこで議決機関は各代表三名づつさらに支部長で構成される理事会とし、常任理事会を執行機関にあらためたわけである。

歌斉唱にうつり、声高らかに学歌をうたったあと吹奏楽団のマイファレディの演奏をきく、このあたりより、ようやく学生諸君とともに楽しむ雰囲気が出てきたが、このあとのビールパーティが、やはりクライマックス。学生会館一階の大食堂に入りきらず、横の庭にも急拠テント張りで会場を広げ、飲み放題食べ放題の豪華なパーティとなった。ここでは自ずと各回ごとのグループにわかれ、和気あいあいの談笑がつづいたが、十三、十四回の女子経専時代のあてやかなグループが錦上花を添え、いつまでも笑いのうずは消えなかった。

そのうちに、茨木のグランド見学の時間となり、希望者は渡辺理事長の特別はからいになる観光バスで出発、残った人達も体育館でのバレーボールの試合や、大学祭のいろいろの行事を大いに楽しんだ。

このなごやかなさが続くかぎりといげしい学園紛争の入り込む余地はないだろう。

「先輩頼みます、靴みがかしてください。料金は御意のまま」どこのクラブかは知らない。ほこりで真白になった靴を一人がみがいている間に一人が肩をもんでくれた。そこには金銭にかえられない暖さがあった。

一、昭和四十二年度収支決算報告ならびに監査報告
二、昭和四十三年度事業計画並びに予算案(いずれもつぎの表を参照してください)
三、同窓会会則改正の件、今までの同窓会総会が議決機関となっていたのを理事会を議決機関とする。以上、満場一致で承認可決されました。(松本)

本部日誌

出席の同窓生は大いに満足してお帰りになったことと思う。今年度の総会には是非出席してほしいと思う。

昭和四三年八月
一、二日 常任理事会開催
一八日 三重支部発会式

昭和42年度決算表

自 昭和42年10月1日 至 昭和43年9月30日

科 目	決 算 額	予 算 額	科 目	決 算 額	予 算 額
前期より繰越	1,691,529	1,691,529	特別基金勘定へ振替	2,876,600	2,000,000
会費収入	7,061,000	6,000,000	総会費	702,311	600,000
名簿収入	333,710	200,000	役員会費	376,782	270,000
雑収入	767,058	600,000	支部費	747,325	650,000
			事務費	1,259,652	1,450,000
			編集費	1,312,690	1,600,000
			対弔費	407,890	850,000
			慶弔費	24,000	50,000
			予備費		1,021,529
			次期繰越	2,146,047	
合 計	9,853,297	8,491,529	合 計	9,853,297	8,491,529

昭和43年度収支予算表

(自 昭和43年10月1日 至 昭和44年9月30日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
会費収入	7,500,000	総会費	800,000
名簿収入	50,000	役員会費	900,000
雑収入	900,000	支部費	500,000
前期より繰越	2,146,047	事務費	1,750,000
		編集費	1,600,000
		対弔費	900,000
		慶弔費	50,000
		特別基金	3,000,000
		余備費	1,096,047
合 計	10,596,047	合 計	10,596,047

- 九月
- 二九日 西宮支部発会式
 - 三〇日 東海支部総会
 - 二日 菅野和太郎先生大臣就任の祝電発信
 - 六日 一〇回卒梅本健三氏来訪 上田藤十郎先生母堂ご逝去
 - 七日 七回卒朝倉賢治氏来訪
 - 一三日 三回卒江籠武平氏来訪
 - 一五日 広島支部総会
 - 一七日 経済学部入学試験
 - 一八日 経営学部入学試験
 - 九州支部総会
 - 学校事務局経理課辻利彦氏より千円寄付
 - 二〇日 富山支部総会
 - 四月
 - 八日 入学式
 - 第一経営 一〇五九人
 - 第二経営 七九六人
 - 第三経営 三七七人
 - 第二経営 二八三人
 - 編集部会開催
 - 五月
 - 六日 三回卒天見忠成氏来訪
 - 七日 三回卒原洋介氏来訪
 - 三〇回卒青井真澄氏来訪
 - 神戸支部総会
- 十月
- 八日 常任理事会開催
 - 一四日 会計監査と総務会開催
 - 一七日 理事会開催
 - 一二月
 - 三日 同窓会総会 出席者 五九四名
 - 一〇日 丹有支部総会
 - 二〇日 二回卒黒才洋氏来訪
 - 二二日 常任理事会開催
- 昭和四四年
- 一月
 - 九日 三三回卒三木安則氏来訪
 - 一七日 編集部会開催
 - 二七日 大阪市役所支部総会
 - 二月
 - 四日 三回卒水上敏夫氏来訪
 - 三月
 - 六日 東海支部総会
 - 一八日 卒業式
 - 第一経営九一一人
 - 第二経営五八五人
 - 第二経営一二人

同窓会支部だより

各地で相ついで盛大に支部総会

三重・西宮両支部が誕生

同窓会の支部活動も年々活発になっていくが、今年度は新たに地域支部として三重支部と西宮支部が、それぞれ東海支部、神戸支部から独立、新発足した。これで、支部の数は地域支部が二〇、職域支部が二、合計二二支部となった。支部総会には今年度から出席者数に応じて本部から一人当り五百円見当の補助費を出すことになっており、今後とも支部活動の応援を強化することになっているが、地域といわず、職域といわず一人でも多くの参加をのぞんでいる。

福井支部

会員待望の総会を毎回お世話願っておる吉田淑氏（丸岡高校教諭）のお骨折で昨年十一月二十三日午後四時より敦賀市において開催した。又それに先立ち折角の機会であるので午後一時より見学会が予定され敦賀駅集合とした。鈴木、吉村両君運転による差回しの乗用車に各自分乗の上国道二十七号線に沿い、福井鉄道路線である国定公園若狭湾周遊が計画されました。これに参加した者八名、

岡山支部

昭和四十三年度支部総会を去る昭和四十三年十一月十七日午前十一時に岡山駅前三好野会館で開催しました。この度は全く久しぶりに藤田学長

で一杯です。今年度は黒正先生の二十周年祭、岡山支部としても何等かの形で追悼の意を表した同窓会支部総会にしたいと考えております。

同窓会支部の諸兄、前回に倍する御出席を頂いて意義ある岡山支部総

山口支部

山口県支部総会を四



山口県支部総会を四
十三年十月二十七日（
日曜日）午後一時より
下関市名池山望閣荘に
おいて小田支部長主催
のもと開催致しまし
た。出席者十五名次の
方々が出席され、支部
長挨拶に続いて同窓会
本部よりご出席頂いた
松本編集部長より学園
同窓会の近況について
の報告があり会食に入
る。

出席者一同久々の会
合に旧交を暖めながら
和気あいあいの中に時
を過ごし、午後三時過
ぎ次会を楽しみにお互
の話しの尽きぬままに
散会しました。（串田）
写真は山口支部総会

神戸支部

朝令暮改と言って昔は方針の定ま
らない政治の事を言いましたが、現
代では方針が定まっても世の移
り変わりが激しく、政治経済を初め
生活全体が昨日の考えでは明日に対
処出来ないような気が致します。

部になるだろうという事になりこの
程奔走している次第です。
近く新しい支部長が選任され神戸
支部の皆々様のご期待に副える事と
存じています。
神戸支部の常任世話人の方々に依
り支部だより第二号が三月に発刊さ
れました。支部の近況及び支部員の
近況等も「神戸支部だより」から適
宜転載される事と存じますので省略
させていただきます。
神戸支部長 三好 悌彦

東海支部

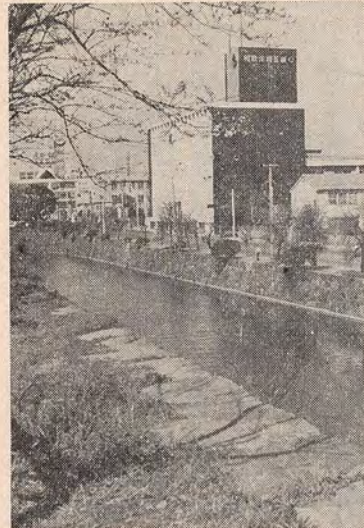
広い道で有名になった名古屋に、
又一つ名物ができた。私設の結婚相
談所がはんなし、その数が日本一
というのだ。警察では売春の疑いあ
り……とこっそり調査に乗り出した
という余談もあるが、これは名古屋
人気質をちょっぴりみせた面白い現
象だ。結婚相談所は人の面倒をみる
職業であり、親切心がついでまわる
はずだ。東京、大阪から転動してく
るサラリーマンは名古屋人のこの世
話好きがどうもハダに合わぬらしい
が、二年、三年とたつと、名古屋は
案内住みやすい」という魅力の一つ
になる。
東海支部が上田藤十郎先生の提唱
で発足してから一三年になる
が、この親切心がいつまでも支部の
ささえとなっている。
現在支部員は二百二十人ぐら
い。総会の通知状など三、四十通が戻っ
てくるから、住所がはつきりしてい
るのは約百八十人。発足当時は愛知
岐阜、三重、静岡の四県下にまたが
っていたが、昨年三重支部が誕生、
それでも現在愛知、岐阜二県下の大
世帯である。職業はまさに多種多様

和歌山相互銀行支部

金融機関、ジャーナリスト、先生、運輸業、証券マン、自営などなど。ことし名古屋で開かれた経大入試に出張された某教授は...

- 名古屋支部長 加藤 正秋
大阪経済大学同窓会東海支部
支部長 加藤 正秋(一〇回卒)

事務所
名古屋市中区錦二丁目五番十四号
岡田株式会社内
電話二〇一七二〇一(代表)



和歌山相互銀行支部のある和銀ビル

新緑が燃える陽春、今正に酣(たけなわ)というところ、一万余の同窓の皆さん如何お過しの事やら...
ここ御三家紀州は五十五万、その和歌山城をバックボーンにして職域支部のある和歌山相互銀行ビルが毅然と内堀にモダンな容姿を映している。

富山支部

昨年充足以来二回目の大経大富山県支部総会を、去る三月二十日名鉄ホテルにて開き大学より大槻先生、同窓会理事長の渡辺氏、常任理事の陰下氏をお招きし大学の近況、紛争問題、また大学並に同窓会の著しい発展の話聞き大変心強く思いました。

現在富山県支部会員は三〇人近くいます。が、ここ数年来の大学合格者数も相当増えていますので、今後

相当数の会員増加が予想されています。

その時のためにも現在の会員の連絡を密にして交友を計りたいと思っています。

さし当り本年度の計画としましては六月に麻雀大会、九月頃迄に講演会の行事を計画していますが、何分若輩者の私故、会員諸氏に大変ご迷惑をかけていますが、母校並に同窓会の発展のために微力ながら頑張つてみたいと思っております。

姫路支部

経大も創立以来三十七年いわば青年期の大学に成長しつつあるといっても過言ではないでしょう。

経大も創立以来三十七年いわば青年期の大学に成長しつつあるといっても過言ではないでしょう。姫路支部もその産ぶ声をあげて満二十一年になります。支部の足どりは人間に個人差があるように幾多の曲折を経ながらも自らの足どりを以て自らのコースをいわばいともゆるやかなスピードを以て進んで来たというべきでしょう。その会員数も始めの頃に比べると全く雲泥の差があり、創立というか支部結成当時より支部を二十有余年お世話させてもらったものにとつて、微力は尽したつもりですが未だしの点も多く、時代の変遷のテンポは激しく時代にマッチしたポリシイというものは仲々むつかしいこととしみじみと痛感いたしております。創立二十周年にあたる昨年は(四三年)マンネリ化より脱して「新しい革袋に新しい酒を」つぎ支部の気分転換を考え、一応私は第一線より身を退く固い決意の下に四三

同窓会支部役員

Table listing branch leaders and members: 東京支部 支部長 服部 友一, 東海 " " 加藤 正秋, 滋賀 " " 野田 邦弘, 京都 " " 木下 隆徳, 丹有 " " 梶村 文弥, 神戸 " " 長島 隆, 和歌山 " " 松本 旬弘, 岡山 " " 大森喜多志, 広島 " " 佐々木 一義, 山口 " " 小田 護, 高松 " " 矢野 保郎, 徳島 " " 谷 俊一郎, 高知 " " 横田 憲介, 九州 " " 荒牧 博之, 石川 " " 石地与四太郎, 福井 " " 内田 甫, 富山 " " 重松 尚, 三重 " " 水上 敏夫, 西宮 " " 増田 憲治, 大阪市役所支部 支部長 中村 宗啓, 和歌山相互BK支部 " 齊藤 照雄

年八月三〇日に支部総会を開催し、小生の真情を繰返し繰返し吐露いたし新しい時代の若い方にバトン・タッチをいたしたいと極力努めました。が、結局その希望も叶わず慎重に協議した結果出席者(約三〇名)の総意に依り幹部を増加補強することに依り、もう暫らく支部長をやれとのことと小生も一瞬戸迷いましたが無碍に総意を無視することも出来ず、又お引受けしたような次第です。新しい強烈な息吹きを身にしかと感じつつ新役員ともよく打合せの上、献身の努力を続けて行く覚悟をいたしておりますので、各位の倍旧の御教導の程を切に願います次第であります。

今後の目標設定について

(一) 名簿の整理を急ぐこと。姫路支部の範囲と姫路市に在住するもの及び勤務先が姫路市内にあるものに限るか、加古川、童野、赤穂方面まで延ばすか等運営に有利なように合理的効果的に新役員と検討すること。(二) 各卒業回数毎に連絡員のようなものを一名乃至二名程度おき、この連絡員を通じてクラスのものに連絡し、一体観をもちあげ合にはより多くの人に出席してもらおうようにすること。

(三) 従来在学生(白鷺会)と一絡に総会を開いていたが、どんな時期に会合をもつのが有効であるかの連絡を更らに相互に密にすること等

ありましよう。(永川仁一)

大阪市役所支部

当支部は例年新年宴会をかねて、支部総会を開催している。本年も一月二十七日市内東区天満橋大阪旅行会館において総会を開催した。同じ職域で勤務しているのだが、仲々集る機会が少ない。当日も短い時間ではあったが、お互旧交をあためたものところこんでいる。

東京支部

皇居の新宮殿も新緑に包まれて、一段と清々しい五月になりました。しかし、世界一の人口をもつこの東京は次から次と清々しくない事件も新聞紙上を賑わしております。さて、東京支部は現在、約四百名(当支部に連絡をいただいた分)の方々が登録されております。今年度支部総会を三月六日、牧田氏(十九回)のお世話により「東京都勤労福祉会館」にて開催いたしました。

当日は百名近くの方々がお集りになり、中には初めて支部総会に出席された方も多数ありましたが、終始なごやかに歓談の時を過ぎました。

皆さん各界にて、夫々元気一杯、活躍されております。同窓会諸兄の活躍により、関東地方といわず日本全国に大阪経済大学の名声を益々、高めたいものです。

当日は本部より世良様、山中様が参加され、母校ならびに同窓会の近況報告になつかしく耳を傾けました。ご多忙の処、ありがとうございました。

尚菅野和太郎先生は昨年に引続きご出席いただき予定になっておりましたが、当日予算委員会が深夜まで続いたため、残念ながら、お顔が見られず、会場にご丁寧な祝電を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。最後に悲しいお知らせですが、いつも支部総会に元気なお顔を拝見しておりました七回野崎義英様(四三・五・一一)、一回佐々木二様(四三・一一・一一)が急逝されました。謹んでご冥福を祈る次第でございます。

三重支部

かねて東海支部員としての三重県在住者約七五名諸氏の声を背景として、このたび東海支部より円満分離三重支部の結成をみました。既に四三年度同窓会総会で認証されましたので概要を申し上げます。発足以来日も浅く、何かと不行届きの点も多くあろうかと存じますが、会員諸氏のご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。支部のより充実と発展にご協力下さいますようお願いいたします。

発会日は昭和四十二年八月十八日三重県名張市赤目滝、赤目荘にて同窓会渡辺理事長氏並に浅沼教務部長、同窓会事務局長比企氏他の本部

丹有支部

全国各地で活躍されている一万余をこえる同窓生の皆さまのいよいよご多幸と、母校の堅実なあゆみによる飛躍的な発展充実にご心よりご同慶のお喜びを申し上げます。

たびたびご説明いたしました方が、丹有支部とは丹波、有馬の地名によるわけです。兵庫県の東北部の三田市、多紀郡、水上郡にある六つの高校卒業生と当地在住者が会員で、卒業生会員と大学在学生会員とが一体となって組織している。ユニークな支部であるといえると思います。

現在、卒業生会員は一五七名ですが、近年当地方より母校への入学生が急激に増加し、本年はついに、在学生会員は一一九名になりました。これは、建学以来の校長、学長先生や諸先生がたをはじめ、関係者の同志的協力による全学融和の精神と、

学問研究の自由を前提とした私学本
来の個性豊かな人間形成の教育が、
社会に高く評価されつつある結果を
あらわすものであります。

いまや、大阪経済大学は名実とも
に関西私学の雄として君臨したので
す。一例を示しますと、昨年は当地
方より約二一〇名の受験者があり、
合格者は五五名でしたが、本年は約
二五〇名の受験者で、合格者はわず
かに三四名で不合格の中から国立
大学や一流校といわれている私立大
学への合格者が多数出ました。もほ
や地方の国立公立大学以上のレベルに
質的向上をした姿を示すものです。

さて、当支部は毎年秋に総会をも
ちますが、OBたちがただ懐旧談に
花を咲かせ親睦の意味に過ぎず
のみでなく、現役の諸君をまじえ
先輩が文字どおり一丸となつて語り
あい、交流する場にしてあります。

昨年は十一月十日に篠山で、藤田
学長先生、浅沼先生、古久保先生等
大学より四名、同窓会本部より渡辺
理事長、比企事務局長の各氏、それ
に、遠くからわざわざ神戸支部長の



大阪経済大学第13回同窓会 嵐山にて S44.5.18

私達十三回卒業
生は、毎年母の日
に同窓会を開いて
おりますが、本年
も五月十日の正午
より、新緑あふれ
る京都、嵐山の
「花の家」で開催
いたしました。

をこぼし、心ゆくばかり語りあいま
した。そのうち、子供もまじえた十
七名が、つきぬ名残りに翌朝まで一
泊いたしました。

一年に一度お互いに顔の「しわ」
のふえたのも忘れて、喜びや悲しみ
を、たしかめあう、私達の同窓会
は、この上もなく楽しいものでした。

後記 この写真には、昨年の暮、結
婚した一人は、いそいそと早く帰
られたため写ってはおりませんが
四名の独身者が居りますので、よ
き人がありましたら、どうぞよろ
しく願っています。―中守―

第十三回同窓会四十四年度幹事
藤沢(高原)みほ子
河崎(高尾)千登世
山村(上田)ゆき
北田(田辺)幸代
柳橋(橋本)紀美
前田(中山)美代子
中守(宮沢)英子

第十三回の集い

三好氏をお迎えして、OB会員三二
名(各地区六名に制限)が参会し、
盛大に有意義な総会を開催すること
ができました。また、在学生たちの

のこと、旦那様のこと、お姑のこ
と、適当にくさしてのりけて愚痴
いわゆる「追い出しコンパ」や、「
歓迎コンパ」等の各種の会合にも、

大阪経済大学同窓会々則の改訂

(太字は改正点)

第2章 役員及役員会

- 第6条 理事長 1名
事務局長 1名
常任理事 20名以内
理事 各回3名及び各支部長
監事 3名

第7条 理事は各回より選出された3名及び各支部
長とする。

第13条 理事は理事会を構成し会務及び会計、その
他重要事項を決議する。
但し決議は出席の過半数とする。

第3章 総会

第18条 定時総会は毎年1回開催し会務の重要事項
を報告して、会員相互の融和親睦をはかるも
のとする。

第19条 削除

第4章 会計

- 第20条を第19条とする
第21条を第20条とする
第22条を第21条とする

第5章 庶務

- 第23条を第22条とする
第24条を第23条とする
第25条を第24条とする
第26条を第25条とする
第27条を第26条とする
第28条を第27条とし

この会則の改正は理事会の議決を経なければ
ならない。

第29条を第28条とする

第6章 学校法人の評議員

第30条は第29条とする

附則

この会則は昭和43年11月3日より施行する

かならず卒業生会員の代表が数名づ
つ出席することにしてあります。

「和と協力」を支部の標語にかか
げ、大阪経済大学に学んだことに誇
りを感じ、大学と支部の伸展のため
母校愛に燃え全員一同肩を組んであ
ゆんで行きたいと思っております。

- 支部役員
支部長 梶村文作 八回
副支部長 倉垣貞雄 十一回
瀬子利昭 十九回
- 地区委員
三田地区 芝 浩 二一回
多紀地区 松本正彦 三〇回
新築盛次 二四回
福山建男 三二回
氷上地区 平野芳治 五回
佐藤浩之 三〇回

第20回大樟祭 統一テーマ 「70年! 志向する群像の叫び」



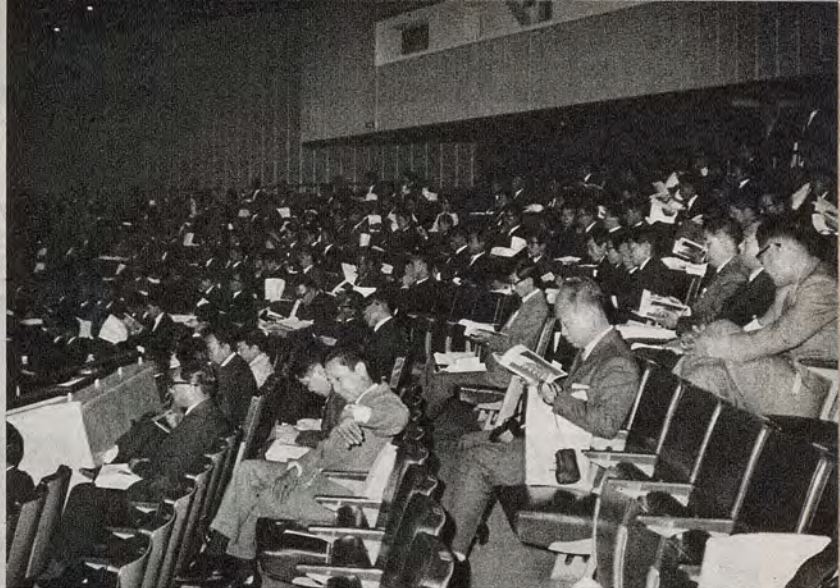
43年度同窓会総会から

昭和43年度の同窓会総会は例年と違って、毎年催される大樟祭(大
学祭)と時を同じゅうして行われました。学生とともに、学生に返
って、ほんとうに楽しい1日だったと確信しています。今年は是非
ご出席下さい。写真上、大樟祭とともに。下、受付風景。





開会前の総会会場



なつかしい先生もひな壇に



学生会館の前は模擬店がいっぱい軽音楽の演奏や、各クラブのアルバイトもあつてにぎやかそのものでした。

各地からはるばる支部長さんも

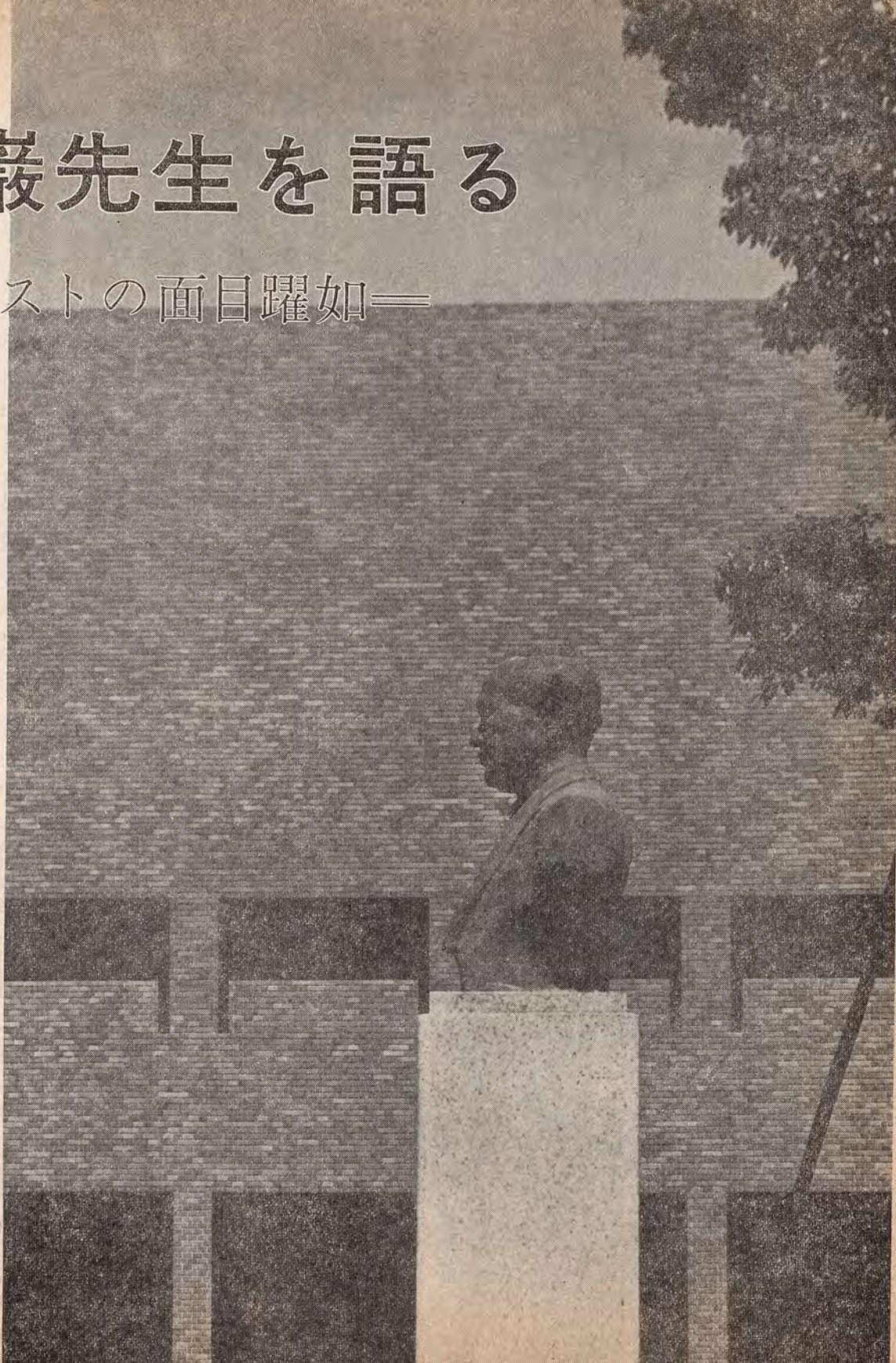


学園創設者 黒正巖先生を語る

＝リベラリストの面目躍如＝

黒正巖先生は昭和高等商業学校の初代の校長であり、大阪経済専門学校から大阪経済大学への昇格にあたっても、一つのポイントは黒正先生を学長に迎えるかどうかという点だった。文字通り黒正先生は学園の創設者であり、学園の支柱でもあったわけである。

他面、人間的にも魅力あふるる人で、そのヒューマンなものの考え方は多くの共鳴者を得ていた。その黒正先生が亡くなられて今年で二十年、この機会に亡き黒正先生を偲ぶとともに、いまの人間断絶の学園紛争のよき反省の材料としたい。



ビールパーティ会場、盛会で急拠会館の庭にも会場を拡張しました。



用意の整ったビールパーティ会場ご馳走はどっさり、今年は是非ね。

渡辺 黒正先生が亡なられて本年はちょうど二十年に当たります。同窓会岡山支部でも大森さんが力になって二十年祭をやるうとしていただいておりますが、「澗江」におきましても黒正先生を語るというページを取りまして、先生をしのぶというところでいろいろお話を伺いたいと思います。本日は大北先生はじめとくに学生時分からごじっこの奥村先生、私どもの恩師である藤原先生、浅沼先生のご臨席を得まして、とくに大北先生はご無理なおからだにもかわりませすお出ましいただきました。四先生に対して衷心から厚くお礼を申し上げます。どうぞ十分に一つ昔からのお話をいただきますならばさいわいだと考えます。

昭和高校の開学

司会 渡辺理事長からご説明ございましたように黒正先生の二十回忌に先生の人間像を「澗江」に浮き彫りにしてみたいということで企画したわけで、まず現在各大学におきまして学園紛争が日常の新聞面をにぎわす問題になっております。ところがこの大学の紛争というものもいわゆる大学そのものもつ封建制度の打破ということが表面にも出されましていろいろの問題を提起しておるわけですが、その根源をさぐってみればやはり人間関係の崩壊、つまり教授と学生との人間関係のふれ合いというものが稀薄になっておるんじゃないだろうか、こういうところに大きな問題があるんじゃないかと思われまます。そういう時期にあたりまして、この黒正先生のもたれる人間性というものを、すなわち機械的な学問の切り売りじゃなくして、人間と人間とのふれ合いを基盤にした人間教育ということに重点をおかれた黒正先生をここでふり返ってみて、その偉業をしのぶことがこのさいとくに有意義なことじゃないかと思つたわけです。その意味におきまして人間教育と黒正先生のもたれる偉大な人間性についてみなさま方のお話をいただきたいと思います。順序として昭和高校の開学へのいきさつ、昭和高校がどういうぐあいに開学されたのかということについて大北先生から。

先生をここでふり返ってみて、その偉業をしのぶことがこのさいとくに有意義なことじゃないかと思つたわけです。その意味におきまして人間教育と黒正先生のもたれる偉大な人間性についてみなさま方のお話をいただきたいと思います。順序として昭和高校の開学へのいきさつ、昭和高校がどういうぐあいに開学されたのかということについて大北先生から。

昭和高校の開学

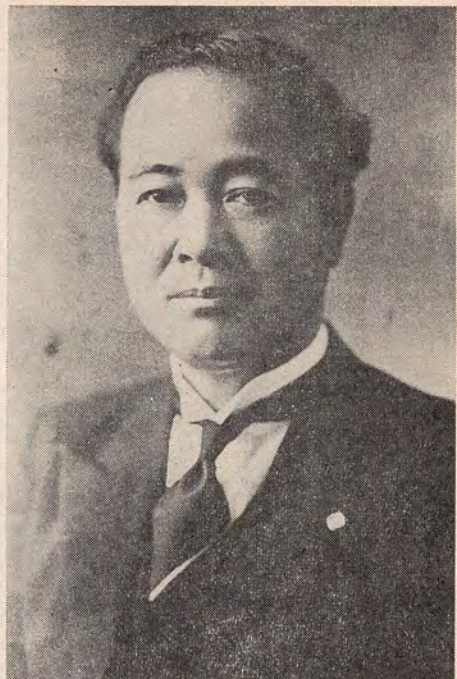
大北 昭和高校が出来たのは昭和十年の秋なんです。僕がきたのは翌年の春、十一年の四月、その前の年の秋からおられる方は藤原先生、浅沼先生。奥村先生は十四年にお出でになった。そのときの事情はよくは知らない。藤原先生から、藤原 教員としては私が一番古いんです。開学のことを簡単に申し上げますと、私は、昭和九年に旧制の大阪商科大学を出まして、福井先生の推薦で出来たばかりの学校浪華高商に奉職しました。私は学校へいきたいという希望がありましたものから、福井先生にお願いして、浪華高商の石川先生という方の紹介で、昭和九年の春に浪華高商へはいったわけですが、そのころはまだ現在のような校舎は出来ておりません。浪商が淡路で授業をやっておりました、淡路の校舎の教室を一部使って授業をやっておったと記憶しております。ところが私が浪華高商へ動めてから一年も経たずに……昔の高等専門学校というのは現金で基金二十万円を積んでおかなければいけない。ところが二十万円の基金が実はホンモノでなかったということが暴露されました、大きく新聞に出ました。ば

座談会 出席者	大北 文治郎氏
本学 教授	奥村 日出男氏
同窓会 理事長	藤原 光治郎氏
常任理事	渡辺 玄恵氏
理事	世良 達好氏
事務局 長	中村 美智子さん
事務局長	百瀬 昭治氏
司会 編集部	比企 重氏
	陰下 嘉典

くらは非常に恥しい思いをしたんですが、廃校かどうかというところで渡辺さん、世良さんその当時の学生がいまのことばでいえばストライキあるいはそれ以上のことをやらせまして学校存続に努力されました。それは大変だったんです。しかし、いつまでも学生諸君をほっておくわけにもいかん。これは一つの社会問題ですから文部省が大阪商大の河田嗣郎氏に収拾を頼んだ。河田嗣郎先生が京都大学の黒正先生、菅野和太郎先生、藤田敬三先生らに収拾を頼まれたわけですが、ぼくの聞いたところでは黒正先生は辞退されたそうです。ところが菅野先生その他の説得があったと思うんですが、私財で五万円、まの三千万円か五千万円にあたりますが、さきほどいいましたように基金は二十万円あるわけですが、それを五万円出された。これは、最後の私財、黒正先生は三百万長者でいまして、二十億円でいすね、そのくらいのお金を持っておられた人です。

人の「和」

藤原 そうですね。浪華高商の先生は、ほとんどやめさせられたんです。ぼくは講師として残された。それから中村清次郎さん、河野さん、建林さん、浦さん、亡くなられた妻木さんという人が残ってあととはみな辞めさせられた。そういうことで新しい陣容で出発したのは昭和十一年の春のとき菅野先生が最初にいわれたことばはどういうことかという、人の「和」が大事だということなんです。もちろん職員も教員も少なかつたし、学校もボロボロであるし、



故黒正 巖先生

ゼロからあるいはむしろマイナスから出発するという状況であった。私は商大におる時は黒正先生、商大の講師にきておられたが、時間割の都合で先生の講義は聞きませんでした。が、はじめて黒正先生に接してお話をすると、なんとというか自然に春風たいとうたる気分になるわけですね。その点菅野先生は逆に秋霜烈日タイプ、まさに正反對の先生だという認識があった。まあそれはともかく、浪華高商は結局何年つづいたんですかな。

渡辺 三年です。浪華高商というのは、ぼくらの先輩の二回で、浪華高等商業学校卒業生は第一回卒業生だけです。第二回卒業生は昭和高等商業学校として卒業した。私どもが入学したのは昭和九年で、私どもは浪華高等商業学校へ入学したのですが授業を受けたのはいまの校舎の古い校舎で、まだ竹中工務店で若干工事をやっておりました。したがって第一回卒業生はほとんどいまの校舎では授業をやっていません。

世良 ちょっと待って下さい。昭和十年じゃないんですか、それで校章を募集して、われわれも出したんで

すが、安達君のデザインが当選しまして、そう明治大学みたいな校章。渡辺 そのときのエピソードとして菅野和太郎の「和」がはいっている聞いたんです。昭和の「和」もはいている。

大北 十一年の春にきたのは僕と上田さん、梅田さん、それに高木さん、久野さん。武田さんが庶務課長で、ぼくが教務課長、上田さんが図書課長、米津さんが生徒課長、その時のぼくの俸給が一番上で百二十円、上田さんが百円、次の人がだれか知らんが九十円、八十円、僕の年令が三十六くらいでした。

比企 よく先輩に聞くんですが、給料が遅配になったのはいつごろですか。渡辺 戦後の二十三年ごろですか冬のボーナスが足らなかつたときに藤田先生が常務理事をやっておられて、同窓会長の私のところへきて、金が足りん、なんとかしてくれんかというので寄付金を集め皆さんにもご迷惑かけたんですが、八万円集まった金を全部お貸ししましょうといったことがあります。したがって学校としては非常に困っておった時代

学識と金のある人

浅沼 私が来たのは昭和十年十一月三日ですが、その十年の夏休みに黒正先生の別荘が京都の大徳寺の奥の釈迦谷にあつたんです。戦争中なんか一時つかつたことがある。そこで藤田先生が著作の原稿を書くため、ぼくも藤田先生の食事のお世話なんかして一夏おりましたけれども、その当時たびたび菅野先生や、名前は覚えてませんが、そこへこられて昭和高校を引き受けるかどうかをいろいろ話をされてました。その当時まあおっしゃったように黒正先生再三再四断わつたんです。藤田先生自身もそんなもの引き受けるな(笑)菅野先生もはじめは反対じゃなかつたんじゃないですか、ただ識見だけでなく金を持っている人でないといけない、ということ、両方を備えた人は君以外にない。それでひきうけられたと思つています。(笑)それで十年に新田の先生入れ替って大阪の道頓堀の不二屋へ集まった。その時三浦先生が機嫌を歌われたこと覚えています。川原先生も一高の寮歌を歌われた。

世良 私達としてはただこれだけの学生がおるじゃないか、この学生の

ためにというので黒正先生がこられたということときき、非常に感激しました。

大北 十一年四月にきたでしょう。学校の状態は講堂にイスが全然なかつた。入学式にもピアノがなかつたんです。菅野さんが七月に大阪市の教育部長に就任され、それまでは昭和高校によくきておられたんですが、教育部長になつたため、それまでのようにこられなくなつた。一週間に一回くらいですか。浅沼 そうでしたね、古い先生に菅野先生が辞表を出してまた会われて君は残るかどうか、浪商のほうへいくかどうかということは一応決められたように思います。藤原 黒正先生はさきほどいいましたように春風たいとうということをいいたけれども、学校へこられた校長室というのがありません。が、校長室におられたことがないんです。ステッキを持って京都から自家用車できて、校長室にステッキをおいてたい大北先生のおられる教務課か、学生課かそういう部屋で雑談されるということ、まあ校長らしくない校長だったですね。そういう意味でいまのことばでいえば非常に民主的ですよ。昔の専門学校の校長という校長室でドカンと居すわつたんです。それが校長室におられたことがない。菅野先生の和、黒正先生の実践をもつてする和、その時は先生方の数も少なかつたし、事務の人は各課一人か二人しかおらない。大北先生も率先して封筒書きでも何でも事務をやられるからぼくもやらざるを得ないでしょう。だから大北さんに恨みがある。率先してなにも封筒書きなどやるべきでない(笑)黒正先生は事務的な

ことまで先生が知らんと学生と接触したりでさんという考えのもとにやられたんです。悪口をいう人に黒正先生は人の使い方がうまいといういい方をする人もあったけれどもぼくらはそういう気持全然なかった。

渡辺 渋谷先生という右翼系の人が黒正先生という人は完全な自由主義者であるといっていた。その人はリベラリストは反対なんです。いま考えるとあの人がいかに自由主義者であったか、デモクラティックな先生だったか、つくづく感じるわけです。そういう点から現在の封建的な色彩を払しょくしようという学生運動のあり方を考え合せる時ほんとうに偉かったと思います。

久野先生のこと

藤原 そうなんです。久野（現学習院大学）さんが反戦運動で捕えられておったとき黒正先生が身元引き受け人になっておられたんですが、黒正先生のやり方は実にデモクラティックだった。久野さんが昭和商にこられたときの同窓会の総会で、渡辺さん覚えていますか、黒正先生がいわれたことば「久野君はまれにみる天才」ということば、いまでは日本的な名士なんですからね。

比企 スクールカラーのエンジは藤原 あの時分、学生諸君と密接に接触されていましてから、もちろん黒正先生のご意見もはいつていると思います。

百瀬 私の知っていることではいまの文部省の三階の一番奥に大臣室があって、その右手が政務次官室、その廊下を私と黒正先生と歩きながら、その階に専門学校局というのがあったんですが、その廊下で、専門学校局長にどうしても引き受けてく

れということに相当くどかれたらしい。黒正先生この廊下思い出があるんだ、引き受けたときこの廊下だったんだと話された。いろいろな情勢からやむを得ず引き受けたんだ。それなのになぜわしが新制大学の認可についてまたこの廊下にこんならんのかなといわれたことがある。

陰下 黒正先生の人間性というのがみなさんのお話から浮き彫りにされてきたんですが、世良さんから何か一つ当時のことについて。

世良 さっきいったように、学生時代から黒正先生と直接お話ししたことほとんどないんですよ。その点ごかんべん願いたいんですが、さっきから藤原先生からお話があったように人間としての幅の広いということにはたしかでした。いろいろな人との交際なり経験なり、頼んだらなんでも引き受けておられる度量の広さというか、人のよさ、これは私達の人生にも非常にはいつてきているような感じがしてならない。それとガンバリズム、お前たちは卒業したら「牛尾となるよりも鶏頭となれ」といわれたことがありますけれども。

藤原 世良さんのことと関連するんですが、黒正先生というのは一方では大言壮言に似たようなことをいわれるが、片一方においては非常に細かいことに気のつく人だった。大局をみながらしかも現実的になどとえば校庭にはえている木にみのむしがついでおるのを見て、小使さんにとらす。そういう気持のやさしさ、そういういったものを兼ねそなえた人だった。

渡辺 ぼくはいつもかわいがってもらったんですが、学生のすることについてもうかがいしないという点がありました。彼らにはみずからには

みずからの生き方があるんだらうという立場をとっておられた。ぼくが先生と話したときに、これは京都大学の先生に申しわけないかもしれませんが、チンピラ教授がえらそうなことをいうとるといっておられたことを記憶しています。京都大学の先生あたり立派な人でいろいろなことを世間に発表しておられるんですけども、先生からすればチンピラ教授ぐらいにしか考えておられない。

先生の識見というか、学識というか、そういう感じを身に受けたことを覚えていきます。経済地理学を習ったんですが、先生は例によって漫談で恋愛論からはじめられ、経済地理に関係のない話をおもしろおかしく聞いている。筆記出来ません。ところがびしゃつと最後になったら経済地理の大綱を教えておられる。そういう先生だった。したがって先生にはノートはありません。よく聞くんですけれども本日黒正講義あり、普通は何々教授休講というんですが。

世良 ぼくのもとで五つぐらい下の京都大学の農学部出なんです。京大の農学部は偉い先生がおられるというのでいった、ところがそれが黒正博士とわかったが、とうとう顔を見ずに卒業したというのです。とうとう卒業まで黒正先生の名前だけ覚えて卒業した。

電車が遅れることもある

藤原 卒業式のときにいろいろ話をよくされた。とにかくがんばれ、それはどういふことかという、朝、家を出かけるでしょう。ところが時をみたら電車が出そう。ところがそれが遅れるとわかったが、とうとう顔を見ずに卒業したというのです。とうとう卒業まで黒正先生の名前だけ覚えて卒業した。

飲んだり、そんなことが一学期に三べんも五べんもあった。

藤原 軍事教練がありました、教練はたいいて京都のほうに向かっていたが、解散したらね（笑）

奥村 腹減らしとるし、疲とるから最後の楽しみ（笑）

受験生にも盃

——大森さんお待たせしましたが思い出

大森 私は黒正先生のおかげで今日あるんだいつも感謝しているんです。私事になりますけれども私の父は非常に封建的な地主で、小学校上がったらいなかの農学校へいれるようにしておったんです。私は農業がきらいなんだから上へ進もうというので、中学校へ行かせてくれた。盛岡高等農林が京都の蚕糸学校以外にはいくなというので、まあ受けたんですが白紙で出して落ちた。そしてどうしてもいかせと頑張ったわけです。そのときちょうど武田先生が姻せき関係でおやじも黒正先生としょっ中京都なんかで会って先生の人物を知っておったわけなんです。先生が昭和商の校長をやったというのを聞いて、黒正の厳さんがやる学校ならいいもいいう。武田先生を通じてお話ししたら引き受ける、知り合いの者三人グループになつてわしのとこへこい、入学試験は形式だけ受けければいいというので受けさせてもらって、それから都島のすき焼き屋へつれていかれました。こっちは中学校を出たばかり酒も飲んだことがない、酒をのめ、ビールを飲め、しまいには仲居を腰巻き一つぐらいいにして（笑い）校長先生がこんな開けている非常におもしろい学校だな（笑い）という印象

遅れまして、はいったとき私が首席で、中山君は七番くらいだった。卒業のときは向こうが首席で卒業した。そのときのことでは、ちょっと考えられんような文才がありましたから頭の悪かろうはずがありませんけれども、どっちかという私の高等学校の印象はまことに努力の人であった。十二キロくらいあった自分の家から往復二十四キロを雨が降っても夏の日照がつづいても六高へ通った。しかも皆勤だった。それほど努力の人でした。文才があったというところは、われわれ同人雑誌をやっておりましたけれども認めてました。六高三年を卒業して私は一応東京大学へはいったんですが病気でやめまして、一年ほど経って高等学校の先生の資格をもらって高梁中学へ英語の教員として三年、そこで石川達三なんか教えたんです。それから母校の一中へ帰りまして七年ほどわき道をしてもう一度大学へはいるといのでこんどは京都大学の文学部で英文科をやりました。その当時彼は七年経って法学部を出まして助手になり、やがて講師を経てそのときは助教教授でした。それが昭和三年から四年ごろ、ところが私はそのときは子ども一人つれ親も養って、いまでいえばアルバイトしながら大学に三年いったんですが、そのとき彼は助教教授、私は昭和三年に出まして地方の中学校に二年ばかりいたんですが、その間に黒正先生の方ではいろいろの問題があつて奥さんと離婚された。原因が奥さんにあつたところから黒正家の方では責任を感じて、自分の娘が悪いだから君のほうに財産をやるといって相当の、いまでいえば何億の財産を譲ったわけです。まあ、そのことは別とし

て、その後、私のほうも旅順とか大連とかへ行きこどもの教育には不向きでできれば恩給でももらったら内地へ帰りたいもんだと思つていたんですが、その話をもらしたことがきっかけで、昭和十年ごろでしたか、恩給でももらって帰る気があればこつちへきたまえ、たくさんは出せないが、最高をあげる、百二十円出すという。ところが私はその当時、月給が二百円くらいありました。りっぱな官舎も与えられておる、一級酒が八十銭くらいの時代で、私あんまり気乗りはしなかったんですが、こどもの教育もしなければいけません。しかし、百二十円じゃどうも話にならないからしばらく考えさせてくれというので、おいておつたんですが二年ほどしたら恩給もついたので、それで百五十円出すというので決心したわけです。そのときお受けした百五十円プラス恩給八十円で、二百三十円ですが、その旅順の生活をするには二百五十円か三百円くらいはらわなければ困る。しかし、そうもいつておれんで帰ってきたわけですからみなさんご承知のうまく軌道にのつています。さっそく菅野さんに会つたら、よく帰ってくれた、しかし、犠牲的精神でやってもらわなければいけません、犠牲的のことで辛棒しろといつた。うちは専門学校ですが、教育はあくまでも高等学校なみのことをやるうと理想にだいておつたようですね。それをいまおっしゃったように精神教育ということに通ずるガンバリズム、高等学校の教育を表面の理想にはしてませんけれども——ただ専門学校の校長室でビールのむというのは日本中ありませんわね。旅行にいったら船のなかでビールを

いう意味じゃないかと思う。あきらめるな、それだと思ふ。

比企 私ら卒業式のときは黒正先生は世良さんがいわれたと同じようにとにかくがんばれ牛のしっぽになるな、鶏の頭になれということ、もう一つは寝る前に三十分、本を読めといわれた。それが積み重なって最後には勝利を生むんだ。

藤原 戦争が苛烈になってきたとき学生に「君たちは英語をやっておけ」といわれた。そのじぶんは敵性語でハンドドルは方向転換、ホームランも大当たり（笑）そのときに英語をやれ。

大北 それに天才的なくらい文章を書くのに速力があつた。実に考えんと書く、たちまち文章になる。一番大きな特徴は心があたたかく冷酷ではない。会って話をしたら春風たいとうという気分になります。

皆勤だった六高時代

陰下 奥村先生、先生と黒正先生は中学校からの友人で何もかも知り合つた仲だときいてるんですが。

奥村 黒正先生と私は両面の関係がございまして、最初が六高の同窓時代、つぎが昭和十四年昭和商にこやっかいになつたという両面があるんです。大正三年にお互いに六高の文科——一部、二部、三部とわかれておりました。甲、乙、丙とあって甲は英語で法律を勉強する。乙は文学、丙は独法でドイツの法律、そのうちの文科へはいつたんですが、中学も実は岡山一中なんです。中学では私のほうが一年早くはいつております。尋常六年ではいまして、黒正君は——旧姓中山君は高等一年ではいつたので、一年私がかつた。ところが私、六高へはいるのが一年

「大阪経大論集」購読希望者へ

本学の全学的な学術機関誌「大阪経大論集」は昭和25年創刊以来定期的に発行され、最近では隔月刊として発行出来るまでになりました。

卒業後も購読を希望される方には下記によりお願ひいたします。せいぜいご利用下さい。

- | | | |
|-------|---|---------------------------------|
| 1. 年間 | 昭和44年度 No.69 (昭44. 5) ~No.74 (昭45. 3) | ¥ 500 |
| | なお昭和40~44年度No.47~No.74 (計28冊) お申し込みの方には | ¥ 2,000 |
| 2. 分売 | 各号 ¥100 プラス 送料 | 卒業年度、送付先を銘記の上代金を添えお申込み下さい。 |
| | 申込先 | 大阪市東淀川区大隅通2丁目 大阪経済大学研究所内 大阪経大学会 |

を受けたんですが、以後段々黒正先生のいいところがわかっておやじのよいうな気持ちになってわがままばかりいうた。おかげで復員して岡山へ帰ってからはじめて黒正先生の想像外の不遇を聞きまして、なんとか同窓の力で先生をお助けしたいという気持ちをもっておったんですが、終戦後一番親しく話をしたのは私が熊本へ行く途中で福山まで汽車のなかで話をした時ですが、お前もがんばれ、お前はいなかへ帰って食糧増産の仕事を考えたらどうか、わしはそれが一番いいように思うという指針を与えられた。私も一応先生の指針に従って一年間百姓したわけですが、いま藤原先生もおっしゃったように、非常に細かいことに気を向けられて、会うごとにどうしてやるか、お前、山を開いたというがどうなったか、私みたいなものしておることをそんなに気に掛けておられるわけはないと思いがら、会ってみるとそういうことをいってくださる。終戦後困り抜いたときに先生に会ったのが楽しみだったわけです。先生に対してどんなにしても恩返しが出来ることはないと思っています。

司会 何か岡山での先生の評価といったものは
大森 とくに岡山から出てきて先生のことについてなにを語れといわれるかと心配してきてたんですが、とくに岡山の支部として知っているというのではないのですが、黒正先生の昔話をとどき古老から聞いた範囲では、黒正先生は毎日同じ時間に六高へいっていった。当時の村の人の有名な話で、お百姓が中山の息子が通ってきたからいま何時だと時計のかわりにされたらしい。中山家から黒正家へ養子にいったというのでも聞

いたんですが、最初に黒正家に候補に上がったのは中西というお医者さんだったらしい。黒正家というのは、非常な金を溜めるくらいの家でしまつやなんです。たとえば落葉売りが松の葉を縄でくくってあるのを売りにくる。決して玄関で買わなかった路地を通して裏側で十銭というのを値切って八銭にして買い込む、そして残った荷物を小さい路地を通って表へ、あとから女中さんが通った道を幣木でくくって一回分くらいたたきつけが出来たというくらいの家だったらしい。中西さんが黒正家へ養子にいくのをつまらんと断つた。そこで、その番頭さんがどうしても養子を探さなければいかんとする。それで、その番頭さんがどうして六高の校門へ何日間か弁当を持って待っていたら一人だけ同じ時間にはいってくる男がいる。どこかかかると。これがどこの人間かというので調べてみたら中山の神主さんの息子とわかって強引に養子にもらす使者を立て、黒正家の養子になったというのを聞いておるんです。

奥村 せっかくの伝説をこわしてしまふようなんですが、実はほんとと同じ文科におった江田という男が黒正家に入りにいって、それが世話したというのを聞いておるんですが、はいったときは中山、三年くらいのととき黒正とかわっていった。
藤原 わしは極貧の生活もしてきたし、お金を湯水のごとく使ったこともあるといわれたが、極貧の時代といふのはいつです。
奥村 六高へいくまででしょう。六高へもいまだたらバスでも汽車に乗ってでもいけるが、それを歩いてくるでしょう。
渡辺 しかも先生が六年からはいら

先 生 原稿をおよせ下さい
先輩諸氏
「澗江」はわれわれ同窓生の機関誌です。みなさんのご協力を得て今後ますます立派なものにしていきたいと存じます。つきましては、みなさま方の原稿を心からのぞんでいきます。随想ももちろん結構ですし、短歌、俳句、川柳、なんでも結構です。
遠慮なさらずどしどし編集部までおよせ下さい。

女子経専へ転向

陰下 いままでお聞きしたお話はよき時代、楽しい時代のお話なんです。ここでその後の変せんについて、つまり昭和と高商が大阪女子経済専門学校に、また大阪経済専門学校になり大学に昇格するわけですが、まず大阪女子経済専門学校に昭和と高商がかわったいきさつについて、大北先生一つ。

大北 昭和十八年ごろだったと思います。政府が男子の経済、商業専門学校を工業専門学校にかえるというので、昭和と高商をどうしたらいいかというので、結局、黒正さん、菅野さん、相談して、僕が、工業専門学校にかわったとしても機械とか設備がなかなか手にはいらない、もう一つは現在の先生を工業にかわるとやめてもらわなければならぬ。先生を失うわけです。これでは仕方がないから相手をかえよう、そうすれば先生も温存できる。戦争がすんだら女子と男子両方やろうというのではじ

大学昇格への条件

司会 さて、いよいよ大学昇格ということになるんですが、大北先生に非常にご苦労をいただいた。ちょうど私たちが大阪経済専門学校にはいりまして、大阪経済大学で卒業しているわけですが、この昇格にあたっての努力といえますか、全学一致の協力は、実に涙ぐましいものがあつたと思います。大隅小学校や近所の農家からスコップや鎌をかりてきて校庭の草ひきもしましたし、学校の清掃、設備の強化、一連のことを学生は学生なりに一生懸命やつたと思います。私達にとっては忘れられないことですが、これが今日の大学の基礎ともなっている。炎天下の草引きはつらかったが、これもガンバリズム、みんな喜んで協力しましたね。
大北 二十四年のあれは大体成功した。みんなで努力したおかげで、審査員の審査結果もよかったです。
司会 それでは大学昇格のときに学生で非常に活躍してくれた百瀬さん当時の様子を。

百瀬 かいつまんで申しますと結論的には大阪経済大学昭和学園というものが新制大学に昇格するという目的が一つと、これに関連して黒正先生を校長に再度求めなければならぬという二つの目標が掲げられたわけなんです、まず第一に大学にしなければならぬということになって、ここにおられる大北先生なり奥村先生、浅沼先生また藤原先生、なくなられた石川先生、きょうお見えになつていない梅田先生あたりが非常にご苦労された方なんです。昭和二十三年に十七万円の給料の金がなくて運配になったことを若月君が聞き出してきて。それで理由はわからな

大北 勅語の読み方は「御名御璽」だけ大きな声でした。
比企 黒正先生に聞いたことがある。なんで「御名御璽」だけ大きな声でどなられますのやというとお前ら小学校一年生から教育勅語なんべんも聞いてきた。もしもおれが読み違つたらお前ら手をたいて喜びやろ、そんなのわかっている、一番大事なのは天皇陛下の名前の書いてあるところと、純金で印を押した四寸四方で、ここだけはっきりしておけばいいのだ。そんなものごじゃごじやいわんでいいといわれたことがある。
中村 私は入学式の直後に驚いた。これはかわつた学校であるなと思つた。私、むずかしいことはわからなけれども戦争さらいですから、そういう意味で黒正先生の態度がのぞましかつたわけですよ。入学式がすんであいつされたわけですね。その話で、花嫁修行のつもりでおるなら帰ってくれ、ここは学問をするところだ。
大北 十三回は入学試験むずかしかった。ずけた女の生徒が入つた。十四回は試験がやれなかった。
中村 私ら二百五十八人くらいはいて、卒業のときは百三十人くらい、挺身隊のがれの連中がほとんどやめた。それと戦災なんかで家が焼かれてやめた。
比企 黒正先生が私にもらされたのは、一番困つたのは女子学生の便所。
大北 芝居小屋の便所だった。
中村 一人で便所へいられない、さつと戸があく(笑い)

高商でもゼミナール

藤原 とにかく学校というのは教師

と学生とが接触しなければいかんというわけだ。ゼミナールがあつたんだのはうちだけです。五回からですね、そういうところに先見の明があつた。黒正先生は昔から近代的な考え方を持っておられた。
比企 ゼミもほんとうのゼミと選択ゼミがありました。私は建林先生の国際経済論と選択ゼミは近藤先生、なんで選択ゼミをしなければならぬか黒正先生にきくと、なるべくたくさん先生の先生に接していわゆる人間関係を築く、ああいう考え方もあるんだということを知っておけといわれた。
中村 私達が岡山へ乗り込んでいったのは、菅野先生が追放にかかられたあとの校長をつくらなければいかん。黒正先生をひっぱり出してこようというので四人で汽車に乗って岡山へ乗り込んでいった。黒正先生官舎におられるときにお伺いして話をした。非常に先生は喜ばれてかならず帰るといふことを約束された。いまずぐにはできないけれども大体一年以内かその前後に大阪へ帰るという約束をされて私ら意気ようようと帰ってきたわけですが、卒業するまでは帰ってこれませんでした。
大森 黒正先生は最後は大阪へ帰るといふのが本音だったでしょう。
大北 当時はぼくらからみたら黒正さんは六高へいってしまふ。菅野さんは追放でしょう。あんなときほどつらいことはなかった。あのとときの光景をいまでも思い出します。ぼくはしょうがないから、いまままでおつた人の光があるんだから、光の中でぼくらもやっつていこうと、頼みにするのは、仲間の先生と学生です。ところが学生が非常に協力してくれた。

い教授料値上げしないでおれば先生方はやめてしまふのではないかと、学生大会で教授料値上げしたのはわれわれがはじめてではないかというところになってくる。たいへん失礼な話ですが、先生も食っていないわけじゃない。その授業料値上げ前後に大学問題が起こつてきて文部省へどうしてもというところでわれわれ学生が動き出したわけですが、そのとき大北先生と親しかった文部事務官の佐藤さんという方に非常にお世話になった。柳宗悦氏の民芸館の板の間に寝たこともあります。その近所に中山伊知郎先生がおられる。大北先生の将棋友達でそこへいかれたこともありました。そのときの文部大臣が当時社会党で森戸辰男さん、五分間の面会時間を三十分延長したり努力したんですが、森戸辰男氏がいわれたのは「君らなんぼいってもだめだ。黒正君は岡山が六高を大学にするためにどうしてもいるのだ。第一岡山県人会が、どうしても反対しているんで、われわれとしてはどうしようもない」ということになったんですが、しかし、われわれ学生の若さでしょう、六高とうちと校長兼任すればいいんじゃないかと、いった記憶があります。出てきて岡山県人会の東京の会長をしていたのが弁護士の人とかいう人で、焼跡の実にきたないところに事務所を持っていて政治的にも有力者だったらしい。徹底的に反対しておつた。そこへ乗り込んでいったら開口一番「お前らバカだ」ものの一分もかからないでどうとうけんかすることもなく帰ってきたという一幕もあつた。さきほど申しました黒正先生と一緒に三階の廊下で、わしは昭和と高商を引き受けるときここでどきどきされ

た。こんどは大学昇格でこんならん。わしは帰るぞといって毎日新聞の裏にヤミビヤホールがありましてそこへ飲みに行っておいできぼりになった。とにかくから回りしていたのか、進んでいたのか、そのときの動きとしては結果的に出来たんだからから回りせずにすんだという気がします。黒正先生の件ですが、結果的には六高の校長で大阪経済大学の校長として申請書を出して却下されずにそのまま残って、学長としてなくなられたと記憶しているんですが。それから、黒正先生の図書をつかりもらえるということをお約束してもらい、いまの黒正文庫ですが、ダスカピタルの第二版ものがたしかあったはずですよ。

藤原 当時ぼくは図書館長をしてもらったが、菅野先生から電話かかってきて京都にあった日本経済史研究所の蔵書を早くもって帰れ、その時分トラック五台で学生五十人くらいおせて、途中で巡査にみつかったが進駐軍のことで日がきまっておるからとそのまま通って一回目は荷づくり、二回目にはこんだ。これがいまでは日本経済研究所になっていまして。いまと違いトラック五台揃えるのがたいへんでしたが、故前田義一君がトラックをやっていたのでよくやってくれました。

全校一致団結して

大北 そのじぶんの学生の熱心さはいまから説明してもわからんね。どんななかというところから若月君が写真電報で大北、菊田、藤原たちに上京せよ(笑)それから審査員がきた日は真ん中三台が審査員の自動車、前と後は学生の車、審査がすんだら学生が旅館まで押しかけていってど

うでしょうと審査員に会った、そんな熱の入れ方でした。

渡辺 黒正先生くどくに阪急のコンコースへいって、先生ビールしか飲まないのを知っているからビールをちゃんと準備してきよる。あれには感心した。

司会 時に、お金の点から黒正先生は随分学校のために私財を投げ出されたと聞いているんですが、学校としては。

大北 お金の点からいうと黒正先生は昭和商からあまりお金をもらっておられない。六高へいかれてから俸給があるでしょう。だからほんとうに俸給をあげたのは昭和二十四年の六月、学校へ帰ってこられたときに三万円、それも六月、七月、八月と三月だけ、九月に死なれた。黒正さんが学校の費用で馳走したというところは極く稀であったと記憶します。

司会 みなさん、お話を聞かしていただいたんですが、いつまでお話しただいたいてもきりがないことで、いずれにしても黒正先生と大阪経済大学とは昭和商の開学から大阪女子経専への移行、さらに大阪経済大学への昇格ときてもきれいな先生であったわけですよ。いままでみなさんにお話いただきました黒正先生の教育理念というところはほとんどそのなかに語りつくされたと思うのですが、最後に一つ、黒正先生に教育を受け、また黒正先生の教育理念をもとに、大阪経済大学の卒業生を代表していただきまして、渡辺理事長。

融和の精神

渡辺 先刻から皆さんのお話にもありましたように、先生の学問的な追求というか、生まれながらにして秀

名簿編集にあたってのお願い

来年度は名簿発行の年にあたっています。住所、勤務先、電話番号など変更のあった方は必ず同窓会事務局までお知らせ下さい。またご友人お知り合いなどについても変更をご存知の方はお知らせ下さい。なお、広告の申し込みも受けつけます。

同窓会事務局

才でありながらその上コツコツと努力で蓄積された先生の学問的な識見もさることながら、そのこつこつやられたことを自分の体験を通して、

自分はこうだったということを押すつけがましくいわれないで、それを自分の体験はこうであったからこうなるべきだろうということから学問を教えるうえにおいて、自分の行動のうえにおいて、つねにそれとなく

教えられるというところに先生のよさがあつたのじゃないか。それをつぶさに受けついで黒正イズム、ガンバリズムといいますが、そういうものを受けついでということ。それと学生を非常に抱ようされる、学生といわず、諸先生方も十分ほうりようされてきた。そういう点先生のご存命中から今日まで融和の精神が受けつがれ、なおかつ現在でもそういう精神が流れておるのじゃないかと考えます。直接にはこうしなさいということはおっしゃらないで、いわず語らずのうちにわれわれに教えていただいたということにつぎるんじゃないかと思ひます。

中村 あまりにも若死ですね、五十歳でしょう。まだまだこれからと

いう時にほんとうに嬉しい人を亡くしましたね。

大北 ぼくは二十四年九月四日、その前日の九月三日に脳いっ血でなくなったと知らされ、どうしたらいいかわからなかった。極端にいえば黒正さんの学校です。黒正さんあつてはじめての学園だった。死なれたら学校やる気なくなつた。

世良 さきほどからいわれたことを適切なことばとしていわゆる建学の精神、教育方針—なにかことばの上で、そういうものがほしいような感じがします。それから今回は出来ませんでした。現在黒正先生がおられたら、という語り合いがあつたらなとおもしろいと思います。現在の学園を語り合う。そういうことも企画の一つに残しておきたいと思ひます。

司会 世良さんからご提案がありました黒正先生の教育理念の簡潔なことば、これについてはご出席の先生方一つ考えていただいて、この次にまた機会を見つけてご提案のあったことなどについて話合いたいと思ひます。どうもありがとうございます。

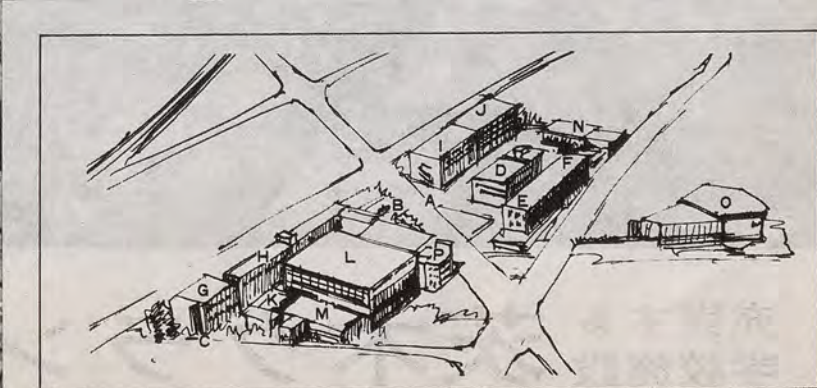


待望の茨木グラウンドも造成工事が急ピッチで進んでいる。緑につままれた絶好の高台、こゝでまたいろいろの記録も生まれるだろう。

充実する学校施設 茨木グラウンド

学舎全景

- A. 東正門
- B. 西正門
- C. 通用門
- D. 図書館
- E. 本館事務室
- F. 本館研究室
- G. A館教室
- H. B館教室
- I. C館教室
- J. D館教室
- K. 大学院館
- L. 体育館
- M. 学生ホール
- N. 学生クラブ
- O. 学生会館
- P. 音楽堂



あのころのこと・4

激 動 期



戦争・動員・敗戦の中から

(十三回〜十五回)

▽……この企画は、卒業生の口づてに伝える学園の歴史である。……△
 ▽……この学園も、創設されてすでに三十有余年、その間幾多の……△
 ▽……波乱、幾多の変せんを経て、いまや大阪経済大学として、……△
 ▽……揺ぎない基盤の上に立派な校風をうちたてた。思えば浪……△
 ▽……華高等商業学校にはじまり、昭和高等商業学校さらには……△
 ▽……大阪女子経済専門学校、大阪経済専門学校、そして大阪……△
 ▽……経済大学へと五つの大きな変動期を経過。それぞれに苦……△
 ▽……難の道ではあったが、苦しみにつけ悲しみにつけ、はた……△
 ▽……また喜びにつけ、いまは楽しい思い出として、それぞれ……△
 ▽……卒業生の胸に暖く宿っている。その折り折りのエピソード……△
 ▽……ドーそのエピソードを綴り合せたのがこのページである……△

今回も最初から題を何とつけるかで議論があった。「激動期」がよいという意見、「変動期」にしたらという意見、あるいは大学に発展する前提として「胎動期」にしてはという意見、それぞれに主張があったが、「激動期」を仮題として話を進め最後にみんなの意見をまとめようということであつた。話の発展の末やはり「激動期」であつた」という結論で、この題に落ちついた。

題はさておき、今回は本論に入る前に編集部からの注釈を少し加えておかねばならない。

この前文にもあるように、今回お招きしたのは、十三、十四、十五の三期の人達、十三、十四期はいわゆる大阪女子経済専門学校の卒業生、十五回は一応名前は大阪経済専門学校と変っていたが、ここにも五十名ばかりの女子学生がいた、いわゆる「女の園」に近い状態の学生生活で

あつたわけである。そういつたことで、今回は一応三期にしほって、いろいろと話をきいてみた。

女子経專の誕生

大阪女子経済専門学校の誕生、とはいってみても、すんなりとみんなに祝福されて、めでためだてで生れたものではなかった。

戦争という悪条件のもと、母体を生かすため、苦肉の帝王切開の末生れたものだった。この伝統の昭和商から女子経專と名前を変えたのが、戦争の真ただ中、昭和十九年の春である。

当時は、すべてが戦争一本槍に集中していた時代で、学校そのものも例外ではなく、高等商業学校は統制下の戦時体制の中、いまさら商業でもあるまいと、高等工業学校へ有無をいわさず転向を余儀なくされていた。

昭和商商とて同じで、工專への切換えは時間の問題とされていたが、さて一方の先生の方となるといっきに工專への転換では融通がきかないし、犠牲も相当に出る。そこで現体制を維持しつつ、生きる道はないかと考えあぐねた末、出てきたのが、女子経專への転進であつた。

男性は全て戦場から出され、戦場にいかないまでも生産の場には直結していた。

しかし、女性については、女子挺身隊という制度は生れていたが、まだまだ余裕はあつた。そこに着目したのはさすがである。

かくて生れたのが大阪女子経済専門学校であつたわけである。

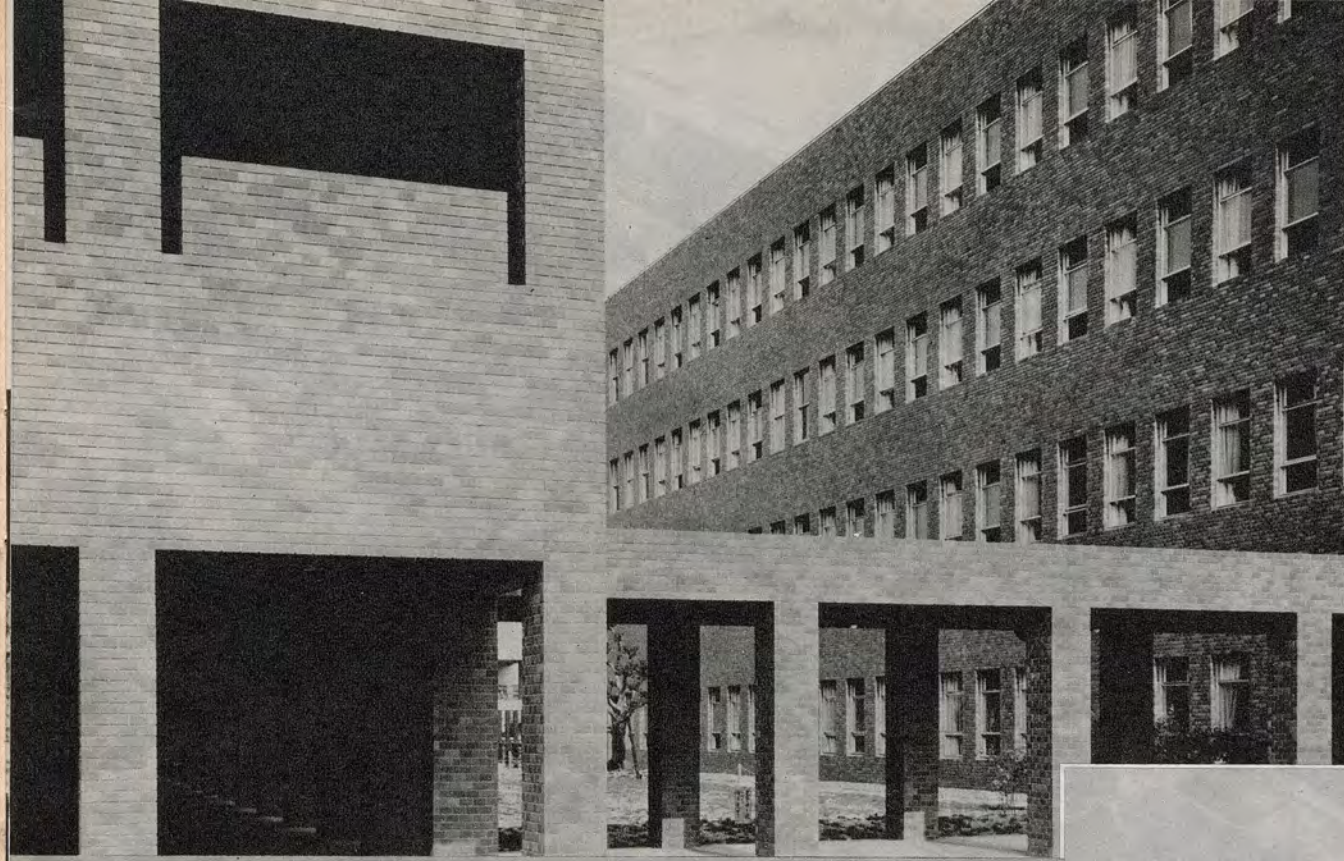
男女七才にして

ところで、女子経專となつて、相当の競争率を突発して学園に入学してみたものの、そこには思わぬ障害が山積していた。

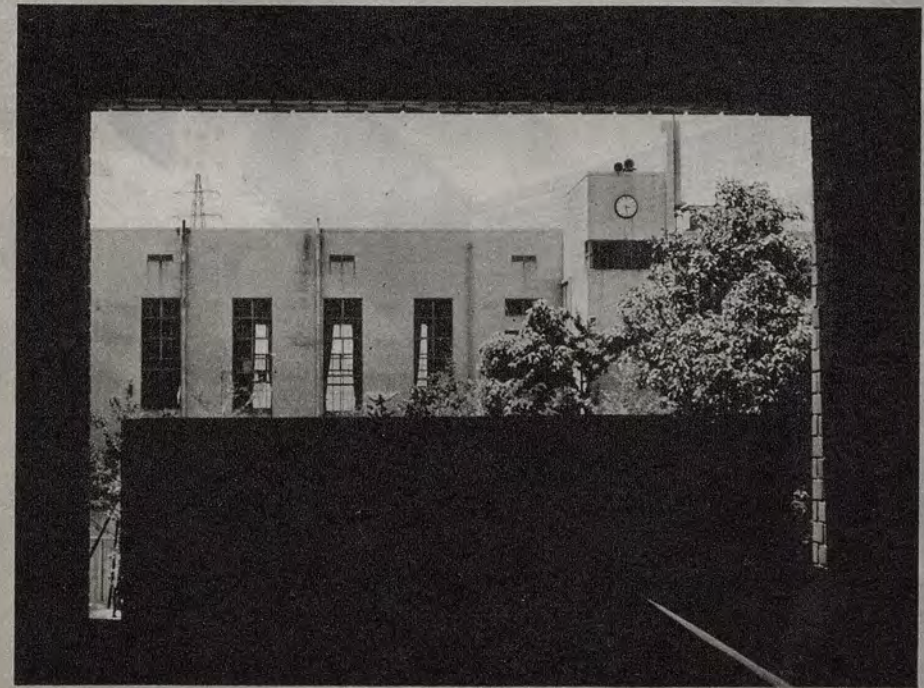
「男女七才にして席を同じうせず」は、古来からの日本の武士道の伝統であつたが、この伝統は厳然として生き、よりきびしさを増してい

学舎三態

カメラがとらえた学舎の幾何学模様、なんでもないたゞずまいの中にも、ハットするような美しさがある。あの学舎も、この学舎も、なつかしい思い出の学舎である。



図書館前から本館研究室をのぞむ



図書館の飾窓から旧校舎をのぞむ



黒正先生の胸像後からC館教室をのぞむ

た、そんな中であって男子の学生にまじって女子学生が入ってきたから大変である。

現在ならさしずめ腕を組んで、青春を謳歌するのだが、当時は、一つの学校にいて顔と顔を見合すことも遠慮したというのだから、まさに隔世の感がある。

男子と女子との教室の間には、これを隔てるつい立てがあり、授業時間にも食い違いがあって、休み時間に「バツタリ」ということもなかったというから、そのきびしさはわかろうというものである。

こんな状態だから男女の壁は以外に厚く浮いたはれたのといった話はなく同じ学舎にいながら、全く席を同じうすることはなかったのである。

また、時代が時代である、恋愛なんてご法度、気持の上では、合引くものがあつたには違いないがそんな

ものはおくびにも出せず、それこそ冷たい一線はどこまでも画してあつた。

困ったオトイレ

精神的なものは、それくらいにして、つぎは肉体上の問題、ここでの最大の難関はおトイレであつた。

男子の学校だから、男子用は十分にある。ところが女子用となると、これがほんの僅か、一度に二〇〇人も三〇〇人も入学したとなると、立ちどころに休み時間は長蛇の列、そこで急拠出来たのが、応急バラックの女子便所、現在旧館の一番西の端、通用門を入れて左側につくられた。

ところが、この便所、応急仮設もいとところ、土を掘って、その上にバラックを立て、幾つかに仕切つて、中に穴があいているだけ、まことに淑女が用を足すにはあまりにお粗末すぎた。

戦時中で用具も充分なものはない。雨風が吹けば、すぐにガタガタ、ついに壊番がはずれ、施設も用をなさなくなった。ために、便所に行くのも二人づれ、一人が戸をおさえ、一人が用を足すといったまことになさない仕儀とはなつてしまつたのである。

まことに不粹なことを書いてしまつたが、生理作用は毎日のこと、とてもつらいことだったという。しかし、そんな中であつて、勉強だけは十二分にやつた。

先程も難関を突破してという下りがあつたが、当時は女学校を出て家事見習などとお上品にかまえていると、女子挺身隊ということ、どしどし生産の場に狩り出されていた。

学校に行けば、それだけののがられる、ということに応募者も多く、それなりに合格者も粒揃い。その上に新しい分野に女性が高等知識をも

って進出するという意欲もあつて、勉学には身が入つた。この学年が最高であるという折紙をつけた先生が幾人かあつたというから、余程出来はよかつたのだろう。

ついに勤労動員

しかし、この勉学への意欲も、戦争が最終段階に入つて一時挫折を余儀なくされた。

つまり勤労動員である。も早や女性だからという特典はどこにもなく、日本国中が戦時一色にぬりつぶされ、女性も戦時産業に動員されていった。第十三回が動員されていった先きは日本国際航空、工場は神崎川にあつた。

こうなれば勉強どころの騒ぎではない。か弱い手が泥にまみれ、油にまみれ、汗水流してたくたになつて生産に取り組むことになつたのである。

もう、この頃になると物資も欠乏すぎつ腹をだかえての悪戦苦闘の毎日となつた。こんな中で、たった一つ忘れられない思い出として残っているのは、レンコンの天プラである。

つまり、動員先の会社から、ドラム缶一本のラードをもらつてきて、学校の横の川に自生していたレンコンを掘り起こし、これにコロモをつけて天プラに揚げたわけである。そのおいしかったこと、となく栄養不良になりがちな当時のこと、唯一の栄養源として大変貴重なものだった。その指揮いっさいが現学習院大学の久野取教授だということから驚きである。

この天プラも、しまいには夜ごとの芳香に嫉妬した近所の人が、警察にたれこんで大騒ぎという一幕まで



13回生のアルバムから

ついでいるのだから、よほど美味だったのだろう。

教科書をスコップに

こうした戦況の暗転の中で、女子経専も二年目を迎え、また新しい女子学生が校門をくぐってきた。ただし、入学が許可されたものの授業が開始されたわけのものではない。学園はすでに軍需工場に指定されて教室には機械がいっぱい持ち込まれていた。ために、教科書のかわりに持たされたのがスコップ、可弱い手でもつばら防空壕掘り、それが毎日毎日続いたのである。

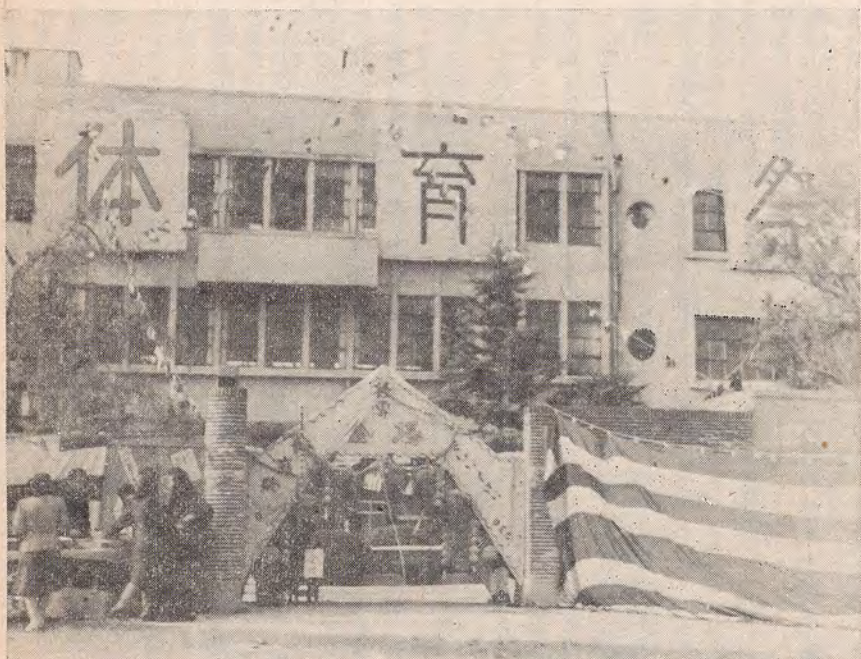
そういえば、この年の一月に大阪が最初に空襲に見舞われてから連日サイレンの音は鳴りひびき、三月にはB29約九十機が大来襲し、大阪の都心部は一瞬のうちに焼け野原となつてしまった。その後も波状攻撃は続き、まったく授業どころの騒ぎではなくなつてしまった。

掘っている最中に空襲ということ、やつと敵機が去つて家路につく道々には焼夷弾がゴロゴロところがっていた。

その空襲も何も真昼間ばかりではない、夜も昼も朝も容赦はない。

朝、いつものように家を出て、学校にやつとたどりついたのが昼すぎ授業を受けぬまに、対岸の猛炎を呆然と見たこともあるし、防空壕で耳をふさぐなどは毎度のこと、時には機銃掃射に命の縮む思いをしたことも何度かあつた。

こうした中で、その生命がけの勉強である。それなりに学ぶべきことは貪欲に学びとつた。



腹ペコの運動会だったが、それでも楽しかった

張感がはぐれて和気あいあいのうちに生きていく喜びをわかちあつた。

それなりにこの回の連帯感も強く、根性もそなわつていた。

いいことか、悪いことか(それは悪いことに違いないが)その後の学期末の試験に、普段から家庭科の女の先生が意地が悪いというところから、申し合せて白紙答案を出し、教務から大目玉を喰つたことがあつたが、これも無言の抵抗として大いに力があつたし、いまでも印象に残る出来事の一つではあつた。

敗戦の日の前後

さて、試験の話で、時間は一足飛びに期末までとんでしまつたが、そ

れまでにいま一つその当時の人達が一様に経験した忘れられない日は、終戦の日であつた。

終戦の日というよりは、敗戦のショックに呆然自失した一時期といった方が適当かも知れない。たしかに、この終戦の日から数えて数日は空白の時期があつた。呆然自失もいところ、敗れたことが実感として捕えられるまでは時間がかかつたし、その間一方では敗戦の処理に騒然たる世の中であつた。

一瞬の虚脱状態が去つたあと、つぎには将来への模索がはじまる。

女子経専も、例外ではなく、敗戦の翌日動員先から引き揚げてきた二年生は、将来の見通しとてなく一

時水杯で別れを告げ、ここでも自宅待機の一時期があつた。

学校がはじまつたのが、もう九月に入つてから半ばをすぎたのであろうか。でも、新しく再開された学園には、物資の欠乏からくる不自由さはあつたが、精神的には全てが解放されていた。

粗末な服装ではあつたが、再び学園にははつと花が咲いた。そしていままでも求めても得られなかつた学問への欲求が一度に芽をふいた。

先生も生徒も、教科書、ノートなどないないづくしの上、すきつ腹をだかえながら、それでも懸命の勉強が続けられた。夜は勉強したくても電力不足から電灯制限があつて、ついたり消えたり、およそ勉強出来る状態ではなかつた。

昔の遺物ランプが各家庭にともされたのもこの頃、まさに蛍光を集めて勉学に励むという状態だった。しかしこうしたあらゆる制約は、むしろ異状なる勉学への意欲をかり立てたことも事実で、最初にもふれたように、この女子経専の学力は旧高商に勝るとも劣るものではなく、優れた人材をつぎつぎと輩出した。

あくまで女性上位

さて、このようにわが国にとつては、とても長かつた二年の歳月をいっぺんに飛ばしてしまつたが、昭和二十一年の春を迎え、また学園史はウターン女子経専から大阪経済専門学校へと移っていく、ただこの場合は女子から男子へと完全に百八十度回転するのではなく、女子にももちろん門戸を開放して、男女共学でいこうというのである。

もとより進駐軍から押しつけられ

た新教育制度は、六・三・三制の文字通りの男女共学であったが、その点、大阪経済専門学校は、それを延長すなりと男女共学を実現した。昭和二十一年の入学試験は、ずいぶん激烈だった。応募の数も多かったが、その上この年の入試の異状はまた格別だった。

つまり、例年の中、女学校卒に加えて、この年には戦争帰りの復員生徒がわんさと押しかけたのである。年令もまちまち、風体もまたまちまちだった。

この難関を突破して入学を許されたのが男子二〇〇名、女子五〇名、三十才を越える年令の者もいたし陸軍中尉、少尉といったいかめしい肩書き付きの新入生もいた。

軍服、軍靴で校門をくぐる者、ロイド眼鏡の片方を糸で耳に掛けている者、入学式はまさに壮観だった。ところで、再び男性軍の登場である。

さぞかし「女の園」は踏み荒されたことだろうと思いきや、さにあらず。最初の新入生との対面の場で、最上級生のアジ演説は、百戦錬磨の男性軍をシェンとさすのに十分だった。

恋のカップルも

たしかに、主導権はあくまでも上級生にあったが、そこはそれ自由主義の世の中、男女の中にも昔の「男女七才にして……」と全く反対の風潮は見えてきた。この学園の中にも

新しい男女の交際の方がつきつぎと出来てきた。その最初はクラブ活動、まだ当時は運動場が食糧生産の場でスポーツクラブは復活していなかったが（その後続々誕生）芸術部や学術部では、男女いっしょになって研さんし合った。その中、話が出たのがダンスクラブ、もう当時の激しい自由化の中でこのクラブの結成は時間の問題とされたが、しかし実際にこれが誕生すると、もの珍らしさも加わって新聞社からの取材も相つぎ、当時の僅かの紙面の、その一部をさいてこれが掲載されたというから、やはり一つの注目的だったのだろう。

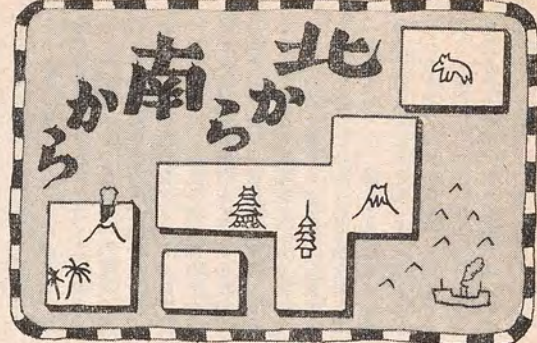
こうした中で、秋には運動会もやったし、また芸術祭は盛大だった。演劇一つにしても、男女片一方に偏していたら、他校から援軍を頼まねばならないが、そうした心配はいっさいない。どんな出し物にも取り組めるし、配役にもことかかない。演劇部が巾をきかせていたのも判るような気がする。

こうした雰囲気だから、恋愛感情も多分に芽生える。一つ、二つとカップルは生れていった。

ただ、いっておくが、学校自体がそういった浮わつたものであったわけではない。前段にとわったように、主導権はあくまでも最上級生、最初に度胆を抜かれているから、そうなれなれしくするわけにはいかない。先輩としての礼をとったあとでの交際である。

アンケート集

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿に
より無さく抽出で選んだ方々です。
といつても、単に何でも結構ですというわけにもまいりませんので、特に①現況
について ②母校同窓会に希望すること ③同窓の友人などのこと ④自由にお
書き下さい。といつことアンケート式の質問に對してお寄せいただいた短信です。
もとより、同窓会会員は全国各地にあって、北は北海道から南は九州鹿児島に
たるまでそれぞれにご活躍中ですが、これはその近況です。



第二回生 山田 政治

一 毎日元気で通勤しています。仕事が生命である私は年令のたつのを忘れて
います。

二 春秋二回同窓会を開催してもらいたい。年一回ではその日に出席出来ない時は一年間の空白が出来るから、尚同窓会には出来るだけ旧交を温めるためにも出席するように要請してもらいたい。

三 第二回生としては重原佐伊忠さん温健な人で尊敬しております。

四 昭和十二年卒業の同窓生の皆様今後の同窓会総会には出席して久しぶりになつかしい顔を見せて下さい。

第二回卒 重原 佐伊忠

卒業して茲に三十三星霜大先輩になったものです。最近同窓会には大抵出席しており同期生の参加が少いのは、淋しさを感じずには居られません。もっとも同期生はほとんどが出征され戦死が多く、また病死もあったの事を思い出ます。

老年ともなれば友を求めて昔の話に花を咲かせて、或は瓦屋町のこと、上新庄周辺というも田圃ばかりだから話に出る筈はなく只瑠璃光寺があっただけ、けれども現在の変貌から語り草も深めて行くものをと考えさせられます。

第三回 那須 皓三

追憶の雁

終戦後間もない年のある秋の夕方、ここ高梁川の上空高く一列の雁が川沿いに南へ向って渡っていくのを見かけたのが最後に、あの物寂びた情趣に富む雁のどぶ姿は、私の任んでいるこの備中路では、もう遠い昔の思い出だけで、再び見ることが出来なくなりました。最近目覚ましい高度経済発展のおかげで、汚れ穢れた空や川の自然環境の中では、渡り鳥も次第とその影を消していくのは、まことに情ないことである。

話は三十年前の日支事変当時におこる。漢口攻略戦において敵將介石の武漢防衛最後の拠点である大別山脈平靖岡の戦場で、私の所属していた毛利部隊水田隊は中隊長戦死を初め、殆んど全滅。運よく生き残った我々十七名の兵隊は、半月に及ぶ戦斗と山岳戦特有の兵糧難のため、全員泥の如く疲れ弱り果てて、折からの楊子江南岸部隊によって漢口陥落したの報に漸く生氣をとり戻し真夜中から翌朝にかけて峻峻な山脈の頂上を踏破し、やがて前面に展開した茫々たる中支の大平原の中を、本隊の後方に従いながら、牛の如く黙々と行軍していた時

のことである。ふと珍しい鳥の啼き声に上空を仰ぐと、頭上を雁の一群がとんでいる。いや右にも左にも澄み切った秋空の中に、見たこともないおびただしい雁の列が悠々と大行進しているではないか。遙かにかすむ北空の雲間から、糸筋ほどのものが次々にサツサツ現われてたかと思う間もなく、中空をよぎり、やがて南の地平線に消えていく。その列の数およそ数百。

思えば漢口陥落で戦いもひとまず終り、砲の音も聞えなくなった。ただ懐徳と我々兵隊と同じように雁も待ちわびていたのである。湧き出たが如く大挙して、しかも整然と啼き渡っていく。

我等生き残りの十七名は、この平和な大自然の素晴らしい眺めに、ただ恍惚として、いくさや忘れ、肩の重さや足の痛みも忘れて、秋の陽が大地の涯を真赤に染めながら沈んでいくまで、空ゆく雁と共に、南へ漢口へ漢口へ、黙々と行軍していったのである。

時に昭和十三年十月下旬、茫々千里を走る秋の夕風がそよそよ身にしみそめる頃、今は懐かしい中支戦線の思い出話

第三回 柴野 茂

拝啓 母校益々御発展の段慶賀の至りでございます。之も在阪諸兄の御助力のお蔭かと益々陰陽共に高揚に向われる由にお喜び申します。二宮、世良兄等を始め新顔も見られ誠に盛会の程をお喜びすると共に益々親交の程を温める事が大切かと思われまます。理事長には最後まで御面

- い交際を否定してみましたが、この間の三年と、あと十六、十七回生を通じての恋愛が結実して見事ゴールインした数を思い出すままに拾って見たが、その数が十数組にもなるのには驚いた。
 - 学生同士だけではなく、先生と女子学生の結びつきもある。これも一二に止まらないのはほほえましい。先生を魅了するだけの美人がたくさんいたとは、まったく愉快ではないか。
 - 新しい男女の交際と恋愛について、相当のスペースをとったが、勉強の方でも、この十五回生は優秀だった。男女の混成、その上に年令の開きなど、もろもろの悪条件の中で、勉強だけは切磋琢磨した。むしろ悪条件が彼らの競争心をあふたつたのかも知れない。この学年の進学率（旧制大学）は優秀だったし、一流会社への就職も多かった。
- 大学昇格への努力も**
- さらに、最後につけ加えておかねばならないのは、この回の人達が大阪経済大学昇格への基礎を築いてくれたことである。
- 十三回、十四回はもちろん、特に十五回生の人達は、自分達が昇格後の大学へ進めないことがわかっていながら、懸命に昇格にあたって努力をした。
- 「家貧しうして孝子出ず」とはよくいったもの、学校自身がポーナスが払えない苦境の中で、学内は一致団結した。
- 学生自らが、校庭の草を抜き、グラウンドを整備、図書館の基礎をつくり、クラブ室も自治会費でつくった。貧しいなりに先生と学生が一体

- この原稿はつきの方達にお集り願ひ、いろいろとお話をお聞きしました中からまとめたものです。（内は旧姓）
- 第13回生
- 中村 美智子さん
 - 前田（山田）悦子さん
 - 山崎 和子さん
 - 第14回生
 - 上野（守時）満里子さん
 - 小松（小林）真佐江さん
 - 柴田 悦子さん
 - 鷹野（米崎）千代子さん
 - 第15回生
 - 池田 昭二氏
 - 大川 良氏
 - 平岡（高木）幸夫氏
 - 本田 精一氏
- となつて動いた。
- 考えてみれば、当時は食糧難の時代、食べるものも、着るものもともに欠しく、貧富の差もあまりない。みんなが平等の立場で、お互を尊重しながら、大学昇格へ一致して猛運動を展開した。この当時の美しい師弟愛、学校のまとまりはそれ以前も、その後もないだろう。激動期を見事に乗り切つて、大学昇格という大きな遺産まで残してくれた、この回の人達にはあらためてお礼をいいたいと思う。
- なお、先生の思い出も、たくさん出されたが、前回と重複する面もあるし、また別稿の黒正先生を語る企画もあるので今回ははぶくことにする。（松本記）

倒を掛けました。赤穂君は淡路で良い夢でも見ていたと存じます。觀光時ですから……七日無事帰宅しました。

先づは御礼芳々お知らせせまで、 草々

第三回 坂根正秋

一 現況

岡山手経管理研究所、代表取締役。東京都杉並区堀の内二ノ三ノ二六。昭和二十三年三月計理士登録同三十五年社団法人日本経営士会、日本経営管理士会正会員。

二、母校同窓会に希望すること。

一般にパーテイ形式の同窓会では、吾々年次の古い者は若干の顔見知りと旧交を温めることが出来る機会も仲々少くはとんど手無沙汰のこともあって、だから出来ないというものもある。

それ引換え、同窓生の所在不明者につき本籍地まで照会して掌握に務められ、濶江等立派な会誌を発行する等多大な努力を払われていることは、所謂同窓会のマンネリ化を改善し常に会の存在を徹底せしめるに資していることは高く評価されるべきである。

「君は学校ではちつとも勉強しなかつたようだが、それが先生とよばれる職業とはね！」と先ずからかわれたが、行方不明者になつてた私を本籍地まで調べてくれた世話の仕方は矢張り渡辺大兄たる面目で、誌上改めて深謝したい。

更に翌日は大阪へ出て日産常務の世良練次常任理事に会うつもりだったが、御多忙で会えず帰京した。それ以来すつかり同窓会づいて総会から三期生の会まで皆勤している次第。しかし、ひふみ会の大半が在阪者とはいへ、民法の中村先生を招いたり、物故同窓生の法要を営んだり、何かと敬服している。その他雜感

兎角懐しがることだけのことはあつても、その感懐を永く保つことは仲々むつかしい。夫々に立場も生活も異なる以上任方のないことはいふもの、やはり中心となる母校の隆盛振りをみることは、誇らかな満足感と大きな同窓生意識が生じ、母校と同窓生双方に相乗作用が期待されるものだ。

い真理の発見はむつかしいでしょう。そのため基金を一口百円位で募集されんことをプラトンの開いたアカデメイアになつて森と泉のある学園をのぞみます。

四 最近はとみに老境に入りつつあるのを感じます。生理的肉体的にガタが来始めていますが、肉体のおとろえに正比例して普遍的的思考ー人類の運命などという事について思索がおよびます。母校の益々発展を期待します。

第三回 宮平享睦

ご送附の学報九月八日拝受、大変有難うございました。万謝叩頭

渡辺理事長、世良常任理事の健在を知り心しみ嬉しく学校の存在も確認出来ました。今後何かとお手数ですが、せめてものよすがに毎回送つて下さる度まずはお礼にかえて

第五回 上原満雄

一 現況 同社山川営業所長として山川営業所勤務中

二 希望 出来れば九州在住（各地区）の簡単な氏名住所勤務先等の名簿録を発行されたい

第六回 松井勉

新緑の候となりました。いかがお過ごしでしょうか。昭和三十四年八月以来すつと大阪で勤務しておりますが、このたび四月一日付で人事院事務局公平局主審理官の仕事をすることになり、週日着任いたしました。

人事院生活のほどを大阪一名古屋一大阪でくらしはいたしましたので二〇年ぶりの東京では公私ともとどきというたえなことばかりです。

まさに文字どおりどばにむちうつて精励する覚悟でありますので、おろふしのおたよりとともに倍旧のご叱正ご鞭撻を願ひあげたく、ごあいさつ申しあげますし動先 人事院事務局公平局主任

小生の在学したのは昭和十三年からでありますから、時あたかも支那事変たけなわであります。当時の学生生活を思えば感無量の一語につきます。営業上は何回か大阪へ出張する機会があり、懐しい上新庄駅を通過する毎に当時のことを思い起しております。新潟県出身は小生だけでありますので淋しい気持でしたが、級友と胸を打ち明けた愉快な生活を送ることが出来たことを感謝しております。一度母校を訪れたいと思つていますが、紙上をかきまして母校の発展をお祈り致します。

第七回 西脇宏三郎

母校には大変ご無沙汰して申訳ない。三重県では遠隔とは言えないが、それでも大阪へ行く用件は仕事の性質にもよるが公私合せても数年に一回もない。従つて自分としては勢い支部中心の行動になるのはやむを得ないと思つてはいる。ご無沙汰しているからこそ母校の近況を人一倍待ちわび、かつその隆盛を心から喜んで居る。来年の万博には家族一同で出掛け、幸い同年の比企兄が同窓会事務局にいてくれるので、是非立寄りたいと考えている。

第七回 湯浅勝美

母校同窓会の益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、現代の一部学生達を思うにかつ私達戦前の学生には驚きの外ありません。自己の権利のみを主張し他人の迷惑は毛ほどの思わない。人間以前の根本的な情操概念をなくしたと思われません。

母校の学生中にはやはり二三反日共系に属し暴動に参加していますが、大部分は真面目に学究に専念している様子安心して居ます。私達高校教官としても一部学校（島根県）に卒業式防衛の挙があり

対策に苦慮しています。末筆ながら母校同窓会の発展を心よりお祈り申し上げます。

第八回 足立武敏

前略 同窓会役員諸氏のご奮闘に感謝します。同窓会も事務局長の交替に依る新風に期待を寄せていますが、濶江の発行にさいしては、運動部の活躍もさることながら学究面での活動ぶりを併せて掲載賜れば幸せに存じます。

経大の学究活動について、あまり目にする機会のないのは淋しい限りです。 敬具

第八回 橋角一郎

拝復 母校愈々ご隆盛の段お喜び申し上げます。別に意見はございません。同窓の皆様並に京都在住の第八回同窓生諸氏に誌上を通じてご健康とご活躍をお祈り致します。終りに母校の今後の発展をお祈り致します。

第九回 馬屋原章

昭和十七年卒業以来始めての音信、誠に感無量、学校の熱心なる調査に依り、「濶江」を手にした時の感激及びもしお母校の発展に唯々目を見張るばかり。万因博で上阪した際は是非参上致したいと思ふ。近郷在住の方は是非音信を。

第九回 生宮 南園

謹啓 時下愈々ご健勝の段大慶に存じます。

さて、小生昭和十七年九月卒の九回生ですがこの度「濶江」第四号をご送付頂き皆様方同窓の方々のご活躍振りを懐しく拝見し、同時に平素のご無沙汰に恥入った次第です。就きましては同窓諸兄の最近の消息を知りたく存じますので恐縮ながら同窓生簿を左記宛名にご郵送下さいれば幸いです。皆様方のご健斗をお祈り

り申上げます。先ずは御願進 敬具

第九回 植田元紹

突然珍らしい大学からの葉書懐かしく受取りました。我々の時代は学務員で学窓から戦線へそして無事復員後は、あの終戦の混乱の中で就職、丁度あれから満二十七年になります。全く激しい世の移り変わりの中に今日に至りました。今は古都奈良市に住み、大阪へ毎日左記の会社に通勤しています。最近電車窓から久し振りに上新庄駅附近をチラッと見ましたが、駅前家は並がすっかり建ち込み濶江越しの学校は全く見えません。折りをみて是非学校を尋ねたく思いますが、今のゲバ棒とヘルメットの学生は我々には理解できかねます。

第九回 山辺大三

移転御通知 謹啓 毎々格別の御引立を賜り有難く厚く御礼申上げます。 さて拙宅今般左記に新築移転致しましたのでここに御通知申上げます。

今後共よろしく御愛顧の程御願ひ少々移転御挨拶申上げます。 尚附近御越しの節は是非一度お立ち寄り下さいますよう御待ち致しております。 敬具

第九回 山口光春

一 一十七年九月に卒業してから早や二七年、光陰矢の如しの諺通り誠に感無量十月に関大法律へ進学して高文の勉強中十八年十二月に学徒出陣、大竹海兵衛、武山予備生隊、館山砲術学校この間囚人並みの生活してはられて、十九年末、海軍少尉として針尾（佐世保第三）海兵団に赴任、終戦時はケ号特別陸隊

い真理の発見はむつかしいでしょう。そのため基金を一口百円位で募集されんことをプラトンの開いたアカデメイアになつて森と泉のある学園をのぞみます。

四 最近はとみに老境に入りつつあるのを感じます。生理的肉体的にガタが来始めていますが、肉体のおとろえに正比例して普遍的的思考ー人類の運命などという事について思索がおよびます。母校の益々発展を期待します。

第三回 宮平享睦

ご送附の学報九月八日拝受、大変有難うございました。万謝叩頭

渡辺理事長、世良常任理事の健在を知り心しみ嬉しく学校の存在も確認出来ました。今後何かとお手数ですが、せめてものよすがに毎回送つて下さる度まずはお礼にかえて

第五回 上原満雄

一 現況 同社山川営業所長として山川営業所勤務中

二 希望 出来れば九州在住（各地区）の簡単な氏名住所勤務先等の名簿録を発行されたい

第六回 松井勉

新緑の候となりました。いかがお過ごしでしょうか。昭和三十四年八月以来すつと大阪で勤務しておりますが、このたび四月一日付で人事院事務局公平局主審理官の仕事をすることになり、週日着任いたしました。

人事院生活のほどを大阪一名古屋一大阪でくらしはいたしましたので二〇年ぶりの東京では公私ともとどきというたえなことばかりです。

まさに文字どおりどばにむちうつて精励する覚悟でありますので、おろふしのおたよりとともに倍旧のご叱正ご鞭撻を願ひあげたく、ごあいさつ申しあげますし動先 人事院事務局公平局主任

第七回 西脇宏三郎

母校には大変ご無沙汰して申訳ない。三重県では遠隔とは言えないが、それでも大阪へ行く用件は仕事の性質にもよるが公私合せても数年に一回もない。従つて自分としては勢い支部中心の行動になるのはやむを得ないと思つてはいる。ご無沙汰しているからこそ母校の近況を人一倍待ちわび、かつその隆盛を心から喜んで居る。来年の万博には家族一同で出掛け、幸い同年の比企兄が同窓会事務局にいてくれるので、是非立寄りたいと考えている。

第七回 湯浅勝美

母校同窓会の益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、現代の一部学生達を思うにかつ私達戦前の学生には驚きの外ありません。自己の権利のみを主張し他人の迷惑は毛ほどの思わない。人間以前の根本的な情操概念をなくしたと思われません。

母校の学生中にはやはり二三反日共系に属し暴動に参加していますが、大部分は真面目に学究に専念している様子安心して居ます。私達高校教官としても一部学校（島根県）に卒業式防衛の挙があり

第一〇回 石川保治

尾鷲に住居を置いて満十五年全く夢の様です。ここで家業の水産関係資材販売の拡大を計りましたが、世の流れにつれ地域開発のため生コンクリート製造等建設資材を併せ比較的順調に参りました。これがこれが大変だと思つて。地方小都市の宿命的な苦難が現われて参りました。又子供達の進学に頭の痛く年頃にもなりました。その節はよろしく願ひ致します。懐しい皆様ご健勝でご活躍下さることをお祈り致します。

第一〇回 生達 健治

一 現在和歌山県立登田高校勤務

二 同窓会の人達がこれ程母校のことを思う学校は他にないと思う。役員の方々のご苦労に感謝しています。

三 九回生で昭和十九年中部八十部隊にいた島田少尉の消息が知りたいと思ひます。

四 今年の入試で五人受験して全員失敗来年はもつとよい生徒を送りたい。母校をトロキストの暴力から守って下さい

第十一回 筒井英夫

一 現況について 仕事は資本金六〇〇億圓以上の法人税調査で東京その他出張が多く、また会社応答者は専門的に勉強している人および大会社の幹部クラスで種々多方面に勉強になっています。家族も二人の子供の入学試験でやせる思いをします。氣候も春暖の候となり一服の畑仕事でもして健康増進をしています。

二 母校同窓会に希望すること、昨年同窓会総会に出席して下さる希望をみて感謝しています。しいて希望を言えば私達の卒業年度では卒業写真を焼いたり紛失したりしている人が多いと思います。格安で複製が出来るようなれば各回ごと購入希望を調査し再販を望みます。

三 同窓の友人などのこと京阪神地区の友人とは時々仕事時、又は電話であるいは待合せ訪問で会うことがあるが遠方の友人とはその機会がない。同窓の友情に感激する年頃になって来た。同窓会報を通して、遠方の友人の近況を知りたいと思います。

第三回 竹 間 倭子

終戦直後の私達の学び集立って行った学舎も今は美しく益々の発展を心からおよるごび致します。

今後益々の名門校として学生としての本分を忘れず学生運動に対しても良識ある行動をとってほしいと念じます。

最後にお世話下さいませ方々に心から感謝の意を表します。

第十三回 能 口 左和子

学窓を出て二十余年、結婚生活も十年になりました。気分だけはまだまだ学生時代と変わらないつもりですが……

中一の息子と小学三年の娘の理想の宝ながら税金孝行の真面目に服を着せたような主人に感謝していいのやら……

旧と新の谷間に置かれた私達の人生の中でこれからは新しい時代に馴れ、子供供達の良き友達として主人を教育して行きたいと思っています。

同窓の皆様は幸福と健康を願ってやみません。

第十四回 中 日 川 弘 子

長女が私の大阪女子経済専門学校当時の年令に近づいてまいりました。あの頃のことを一つ一つ思い出してなにかと話し合っています、やはりあの三年間はそう無駄でもなかったような気がします。先日は卒業以来始めて母校へま

有志の会(研究会)でもあればご紹介下さる。

第二回 大 橋 章 一

一 現況について、昭和四年六月より八尾市ハート封筒(株)に出向社員(ハート名刺(株)在籍)として勤務しています。

二 同窓会は年々盛況で大変結構に思います。唯最近の学生運動については行き過ぎないよう普導してほしく、同窓会としてもより一層の関心を持つべきではないでしょうか？

第二回 大 西 芳 治

一 現況家庭二児のよきババ娘小学四年と一年生

二 本年同窓会出席盛況を感謝する、毎年趣向を変えて出席率向上策望む。会費の値上げも可。

三 職場池田銀行経友会(経大卒業生)三十余名銀行内のグループとしては第三陣営固守、年二回会合を開き母校教授招待することしばしばあり有能の士多し。

四 雑感学生運動については融和の精神をもって対処のこと。

第三回 井 上 義 一

一 「現状」国鉄職員として生産点で勤務しています。

二 「同窓会」には年一回有名人の講演会希望

三 「同窓会」では三二一を作った私も役員の一員としてがんばっています。

四 「雑感」母校も法、文学部を早急に設置し社会科学系の学校として実質ともに母校が世界一の学問の殿堂として又大学院を強力に強大に大学院大学として発展し、社会に一度就職しても再度入学し、年令を忘すて勉学出来る門戸を解放するため(一部夜間)の設置、大学院のニーズを発行、大学院を同窓生文

いりまして立派になったのに驚きました。これからは年令を逆算して大いに若返ることを考えようと思っております。

第四回 大 西 恵美子

同期生で結婚されて育児に忙殺されて同窓会に連絡出来ず、私からの時たまの現況知るのみの北村ゆかりさんの住所を知らせますので今後よろしくお願い致します。

北村ゆかりさんの住所

第五回 田 中 博 見

昨年末頃と本年一月と再度にわたってのクラス会があったが、それぞれクラスメートが二十年振りに二十名前後集ったのは成功だったと思う。

明治は遠くなりにけりとはよくいったもので昭和の四十年代ともなると大正と昭和の初期生れが、社会の中堅から上層クラスに進出して来ているのが明瞭に分る。大会社の部、課長あり、社長ありで公私共に多忙の限りを尽くしている。

一、二年以前よりの国際経済の異常な変動と更にその後続く高度経済成長の発展途上における社会的責任の各ポストにおける重要な担い手となりつつあるのは何れともあれ御同慶の至りと申し上げたい。私事で申訳けないが皆様御存知の上新任職前で十数年続けて来た木材の販売業を十六回生の愚弟に任せ、一昨年より不動産業務を開始しました。仲介業務専門は余り性格に合わぬので専ら分譲住宅部門を手掛けるべく新会社を設立して東奔西走しているが、御承知の如く地価の高騰に悩まされ目下苦闘の真最中、母校二部在学中の後輩と二人で小さいながらも堅実経営をやっています。

本業は分譲住宅部門と併せて各銀行不動産部等と横の連絡を取りつつ更に仲介より管理鑑定へと発展すべく努力中であります。

第二回 村 田 政 義

母校の発展を期し同窓生一同のご健康をお祈りいたします。

第二回 前 出 謙

一 同窓会に企画してもらいたいこと

昨今の我々は学窓を巣立っても勉学とはハイ、ソレマデヨ、とはいかない。たえず新しいものを勉学する意欲を内的外的に強制される。そこで卒業生に対する研修会―会計学、経営学のグループにわけ同校で夜間に行なう、もちろん本学の教授によってである。その場合実費は参加者負担でといった計画はいかが、そうすれば学校とのつながりもさらに一層深まると思う。

第二回 林 賢 美

大阪市教育委員会並びに私立学校連盟の推せんで四十一日(十四日)の欧米視察の間教育事情及び労働市場の調査研究を行って参りましたが、何と云っても戦後の教育はアメリカの最も悪い教育制度を借り受けた感が強く、真の日本独自の教育制度を確立させなければならぬ。それが我々教育界のみならず、青年に負われた大きな任務といえるでしょう。労働力不足もこの教育制度の大きな欠陥から生ずるのであって我が国ももっともっと真の教育を行い、本当の大学教育が必要な時期でありましょう。遊び好きな方々はフランス、ロンドン、ニューヨークあたり、又「飾り窓の女」で知られるオランダ・アステルダムは良かったですネ。機会があり、視察報告がまとまりますれば十分報告させていただきます。

金入りのデモクラシーで愚かしい学園斗争による破壊と建設に転化されている積極的姿勢と統一された事実には誠に立派であり同窓生一人として誇らしく思う。

近隣に在住しながら二十余年何等の寄与する事なく過ぎ去ったことを辱しく思うがその非才に免じて許されたい。

忙中閑有りで数年前より荒磯釣に魂の浄化を求めて来たが、本稿が「澗江」五号として手許に届く頃にはシーズンになりそうであるから釣具の手入れに余念がありません。

同好の士が近在に居られたら御連絡下さい。是非御同行したいと思えます。

本学並びに同窓諸兄姉の御発展と御健康を祈って御筆します。

第一八回 田 所 司 三

久々のおはがきにて瞬時学生時代の思い出にふけりなつかしさがこみあげて参りました。お問合せの件につきましては一生長乃家の普教に全生命をかけています。

二 特にありませんが日常多忙でほとんど出席出来ないのが残念です。(目下甥が在学中です)

三 もっと連絡を密にしたいと思えますが……

四 ゲバ棒騒ぎのない、真に人格形成、真理探究の場としての社会的特権の場を破壊しないしてほしいと後輩達に望みます。あまりにも単純な考え方の学生が多すぎるように思えてかなしく、もっとも「真理」を学んでほしいですね。

第一九回 倉 垣 貞 雄

「兵庫県商業教育に活躍する経大卒業生」兵庫県下に商業課程を設置している高校は公立下、単独総合あわせて三十校あるが、公業科長会(主任会)に出て昭和商高の卒業生が四名出ていることに意を強くしています。県下における商業課程は増加の傾向(普通科減)にあるので、

第二六回 菅 原 啓 真

謹啓 新緑の候皆々様には益々御清邁の御事とお慶び申し上げます。さて私事このたび本社勤務を命ぜられ無事赴任いたしました。左記に居を構えましたので御通知申し上げます。

今後共宜敷く御指導御懇情の程御願ひ申し上げます。尚近くにお出向の節は是非お立ち下さいますようお願い致します。

敬具

第二六回 一 色 真 佐 男

先日久しぶりに同窓会に出席し余りにも立派になっていて驚嘆もし、感激しました。十年一昔といえ、かくも立派に成長した学窓の諸先輩ならび素晴らしい先生方の賜物と胸をなまわり大きくしたようでした。

第二九回 橋 本 正 之

「澗江」第四号に北の地札幌にて接し得る事が出来、懐しく郷里を思い浮べております。卒業後株式会社郷鉄工所に入社三十九年春以来単身にて来道現在同社札幌出張所にて大いに活躍致しております。在学時代ESSに入席し二〇日余りで北海道を一〇名程で旅行したことを思い出します。七年経った現在凸凹道はアスファルト舗装と化し主要都市は内地のそれと変わらない程近代化しております。

母校経大も近代設備のもとに素晴らしい発展された姿を「澗江」より見る事が出来何より嬉しく感じています。年末には帰阪する予定です。是非母校経大に立ち寄るつもりです。幾久しく逢うことのない友人にも逢ってみたい気持ち一杯です。

小生卒業生名簿の住所は下記の通り移転致しておりますのでここに御連絡申し上げます。

第三〇回 中 原 章

現況について、教職について五年目をむかえ、現在三年担任で就職進学で忙が

後輩諸君がどしどし来ることを待つている。今後とも経大出の校長、教頭が次々と誕生するだろうが、先輩、後輩、大学との連絡を密にして助け合っていきたい。その一手段として兵庫県教職員支部(仮称)を同窓会の職域支部として発足させるべく有志を準備をすすめている。

同窓会の活躍こそ経大の特徴であり、より発展させていきたい。

第十九回 平 田 五 郎

一 この二三年程続いて同窓会に出席させて頂いたとき、年々母校の発展に目を輝やかされまして誠にすさまじいの一語につきました。小生只今建築設計を業とする朝池田宮彦設計事務所勤務しており、豊中市民会館、堺市市民会館等我が社の設計監理に依るものです。

二 毎会発行されて居るこの「澗江」にもっと在校生の活躍(例運動部等の戦果等)や同窓の現在活躍している人々のプロフィール等掲載してはどうでしょう。

三十九回卒の永井宏氏は現在加古川市会議員として盛んに活躍されており、同氏の将来が楽しみです。株式会社竹中工務店に勤めて居られる十九回卒の斎藤光氏は企画課長、東川禎夫氏は営業課長、第二十回卒の宝井泰信氏は総務課長等、経大卒は大いに頼頼って居られます。

毎年「澗江」をお送り下さい。

第二〇回 岡 田 健 二

一 公立中学校教諭として卒業後すぐ勤務、十五年目をむかえます。社会科の教師としてこの十五年をふりかえってみますと、教育内容があらゆる機会に戦前の方向に戻ろうとしていることを身近かに感じます。日本国憲法がこれ以上空洞化されないよう現場でも頑張っていくつもりです。

二 現在自分のことが精一杯で同窓会に對し何一つ協力出来ておりません。いつかはきっとお役に立ちたいと思っております。

同窓の友人について

本年三月卒業の家本安治君が当校に就職一年担任、寮生指導でがんばっております。

雑観

経大の発展を心から望みます。

第三一回 久 保 富 夫

現況については実に厳しい。Kokushoismのバルスに於いたCodeシステムと会計に伝統の魂を入れる方法を学んでおりますが希望といえは同窓会システムには自由化経済のものでこそ伝統ある黒正システム精神を徹底的に入れて下されば先生も喜ぶと思えます。友人及び雑感については昔の話で恐縮ですが「中小企業」の中を嘉永元年生のじいさんが飛脚の肩の上のふださしと読んだのを今も忘れることができません。あの時の友人のふださしの分析の微妙な思慮判断が二世の生命に成ったかと思えば罰のあたるとは決していたしません。

以上

ミギテオトシテ、テソノギンショオ、ツケタラ、ウラジオミテ、レイギオツクシニシタイオムネトシテ、ジミニクランスマ

住所 不定(決定次第連絡します)

第三十二回 寺 内 毅 一郎

拝啓、陽春の候とはいえず、まだ肌寒い日もあります。今日このころ。

「澗江」を頂くたびに大学時代を思い出しく思っております。

私ことこの度、家庭の事情によりまして貴大学より御紹介を賜りました扶桑産業株式会社を円満退社し、父の家業を引継ぐことになりました。

つきましては、住居も変わりましたので別紙の通り御通知申し上げます。

どうぞ今後共よろしく願ひ申し上げます。

れ一歩づつ退退していくのみである。仕事、スポーツすべてにあてはめる事が出来ると思つていいます。皆様も共々がんばりましょう。

敬具



汗をかき書き集後記を書きながらどうしてこりも毎年発行が運ぶのか、弁解の言葉を書きすのに大弱りといつたところである。

第三回 服部 喜八郎
一 母校を巣立つて丸三年、現在営業の第一線に立ち元気で働いています。仕事に忙殺されたら漫然と過した三年間この無気力の生活から脱出のため今年より予ねてよりの目的を実現すべく、夜間ある学校へ通学することにしました。なお今春一児の父親になる予定であり、その意味からも一つの転機としてがんばりたいと思つていいます。

第二回 同窓会には過去二回出席しましたが、母校の発展ぶりに驚くと共に各界にて活躍の先輩諸兄を見て意を強くしています。末筆ながら同窓会の発展と先生方並に先輩諸兄同期諸君のご健勝を祈ります。

第三回 中尾 利克
新緑の候益々ご清祥に涉らせられお慶び申し上げます。
私儀今般一身上の都合で大阪ちきりや茶舗を無事円満退社いたすことになりました。

ちきりや茶舗在動中は終始格別のご懇情を忝うし誠に有難うございました。今後は伝統ある京都ちきりや茶店の一員として経営に参加いたすことになりましたが、ちきりや茶舗在動中と同様に倍旧のご引き立ての程お願い申し上げます。右略儀ながら書中を以てご挨拶芳々御礼申し上げます。

第三回 増田 多紀夫

在学中もそうであったように、実社会でも一年目は落ちつかずそわそわ二年目になってその中にも少し余裕が出てくる。しかし在学中はその余裕が大切なものとは感じなかったが、社会生活では、余裕を有意義に過ぎなければ、取り残さ

第三回 堀 重雄
拝啓 卒業して一年を経過し梅雨時となりましたが皆様ご健勝の段お喜び申し上げます。大阪経大も年々発展を続け新幹線から見る学舎も一段と華やかさを増し、その度に手を合わせております。入社後三ヶ月にて工場配属を命ぜられました。我が社は織布・染色と一貫加工体制を売る繊維会社ですが、織布部門の工場に勤務致しております。総従業員十分の一である三百余名を抱えた工場に主として織機と仮燃機に依存していますが、仮燃機のモーターことこの上もなし。仮燃とはナイロン・テロンその他の原糸に燃(ヨリ)をかけて柔らかいウーリー糸に加工します。燃数により品物が変化するため繊維としては基礎であり、最も重要な仕事です。

しかし織工場の特典は女性の多いこと有名で、三百余名中に男子は五十名程度で毎日が本当に楽しく成ります。年代は十五才から三十過ぎまで色とりどりございますが全く興味がないうんざりします。
三四回の白藤、山本、天見達は悪重だつたので大阪で相当頑張っていることと思つたので、京都の持家はどうかしてやる。遠きにて『友を知る心境で赤い灯青い灯が早く見たいと望んでいます。』
三三回の大久保氏とは鯖江のビヤガーデンで時々一緒にいましたが教習でハリキッテおられます。
さて大学の発展は内容の充実とともに体育・文化活動の活発化を意味します。例えばグリークラブを取り上げればどれ程大学の名譽と開拓を為したことがか。

これはグリークラブによらず他の優秀なクラブに対しても同様のことがいえます。これらのクラブ活動の有益性を認め、その発展と大阪経大の前進に援助を

第三十四回 山口 保
前略 卒業してから早や二年近くとなりまして。仕事に、生活にと追われた毎日でしたが、最近やつと余裕が出来たというか、東京の生活に慣れたというか、学校時代の先輩、友達がなつかしく思われます。
つきましては私、東京におられる先輩諸氏あるいは同期の方と友好を暖めたいと思つたので、同窓会東京支部の世話をお願いする方とその所在をお知らせ願えれば幸いに存じます。よろしく御配慮の程お願い申し上げます。
寒さが身にしみる毎日です。皆々様の御健康をおいのりする次第でございます。

第三回 山本 光章
拝啓 皆様方におかれましては益々ご健勝にてご精励のことと存じます。
私も社会に出まして早や一年、平素の皆様方のご指導を深く感謝し厚くお礼申し上げます。

この度当社も急進上昇の機運に乗り東京に営業所を開設致しましてその派遣員として東京にやつて参りました。今後共皆様方の宜しきご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げますと共に下記住所にご連絡下さいますようお願い申し上げます。
末筆ながら皆様方のご健康とご多幸をお祈りいたしております。
尚上京の際には是非ご連絡下さいませようお願いします。 敬具

学歌

作詞 故秋本吉郎(元本学教授)
作曲 柴田南雄(東京芸術大学教授)

一 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑がしみる
この若さ 蒼空かけて
希望は明るい 蒼空かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

二 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負ひもちて
諸汗に 確つかと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

三 そびえたつ

白亜の殿堂 秋空高い
澄んだ心に 鐘なりわたる
晴れ空だ 扉につどふ
ひらく真理の 求理の学園
面はかがやく 大阪経済大学
大阪

四 濔標

世界の商都の 入船出般
水先みちびく 経済実践
前途はるか 氷る潮路も 乗切る気力だ
自由で揺がぬ 自治立つ学園
大阪 大阪経済大学

逍遙歌

作詩 中村行男
作曲 松川圭一

(一) 此処城北に迎えたる

紺碧淀の春の夢
惜春の賦のたよれば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

(五) 乱る金剛枯風の

叫ぶ野風粉吹雪
緑定石に佇ずめば
無言に教うる朔風の
肌いきびしき鞭なれど
懐古樂しや語り草

(二) 水やにこれる人の世に

真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わらまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が春を

(六) 霜ふみ通うこの朝

暮る、易きやこの夕
真冬寒波の寄せ来てや
淡き光のいざないに
汝が故郷を偲ぶれば
鐘の音さびし瑞光寺

(三) 集いの庭を共にせし

我が学舎の乙女子は
愁の時は過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

(七) 小鳥が森に歌うとも

小羊野辺にたわむとも
さすらい旅の此の世には
花びら風に待たずして
春や心の乙女子は
はかなき恋に泣くとかや

(四) 虫の音すだく秋来れば

小川こよなくさびた、え
こち吹く風に花なびき
自然しいて逍遙の
尋ぬる途は遠くして
薙露人生はかなしや

(八) 想いめぐりて尽きぬ時

緑が原に人訪えば
落葉か、れる語らいに
愁憂の声今はなく
新たに目醒むる者のみの
微笑は花に映ずなり

澗江 第5号
昭和44年8月25日発行
発行人 渡辺 達好
発行所 大阪経済大学同窓会
大阪市東淀川区大隅通2丁目
電話 (328) 2431~3番
印刷所 共成社印刷株式会社
大阪市北区葉村町4番地
電話 大阪 (371) 0254



大阪経済大学同窓会誌 NO.5